

「21世紀を担う、心豊かで創造性にあふれたエンジニア」を育成するために！

平成28年度

在学生・教職員

# KTC総合アンケート調査結果

[報告書 抜粋]

金沢工業高等専門学校

## INDEX

<1> 本調査の全体像	2
<2> 基本的な指標	7
<3> 各分野の分析	19
<4> 高専の方針に関して	57
<5> 学生の能力に関して	67
<6> クラス別の主要指標の比較	75
<7> 教職員調査	81
<8> 卒業生調査	93
<9> 調査結果全体のまとめ	101
<10> 自由記述の整理	115
<11> 調査票見本	153

## 平成28年度KTC総合アンケート調査結果について

学校のプログラムの成果と効果を継続的に観察し、その機能している強い部分を把握した上でそれらを強化し、同時にあまり機能していない弱い箇所も認識し改善していくことは重要です。学校はその出資者である学生と保護者、そして二次的な出資者ともいうべき卒業生の雇用者、教職員、そして社会全般に対しても一連のサービスを提供していると言えます。学校が用意する教育サービスの本質とクオリティーを評価するために、様々な種類のデータを収集し比較することが必要となってきます。よって金沢高専にとって、毎年実施されているKTC総合アンケートはひとつの鍵となる資料になります。

このアンケートは学生と教員における様々な受け止め方や、彼らが抱えている印象を示してくれる重要な指標となります。満足感や達成感は重要な目標であり、またプログラムそして職場としての学校のクオリティーを指し示すものであります。

したがって、私たちは一般的な満足度を評価しようと試みており、またその満足度をより上げている要因、あるいは下げている要因となっているプログラムや施設の側面を把握することにも取り組んでいます。しかしながら、私たちが提示している「2020 Vision」の目標としては、満足だけには留まらずさらに先を目指しています。4つの主な目標としては、1)アカデミアを育てる、つまり学生と教員を含めた学習者のための協働コミュニティを育てる、2)学校生活を彩りあるものにする、つまり私たちが提供する教育体験をできるだけ魅力的にそして刺激的なものにするよう努める、3)個々の学生の唯一の個性やオリジナリティーを評価し育てていく、そして4)革新的な考え方をする人物を教育していく。これらの目標に向かって進歩しているかを見極めるために、そしてその目標により近づいていく方法を探るために、私たちはここにいただいたデータを注意深く分析していかなければいけません。

ご協力下さいました関係者の皆様に感謝の意を表したいと思います。

平成29年6月

金沢工業高等専門学校  
校長 ルイス・バークスデール

It is important to continuously monitor the outcomes and effects of school programs, both to identify and build on strengths, and to identify and improve weaknesses. A school offers a series of services to its principal stakeholders—students and guardians, as well as to secondary stakeholders, which include employers, the school staff, and society at large. In order to assess the nature and quality of the educational services that the school provides, it is necessary to gather and compare data from a variety of sources. For KTC, one of the key sources is the annual KTC General Survey of students and faculty.

The results of this survey provide an important indication of the range of attitudes the students and faculty hold, and impressions that they receive. A sense of satisfaction and fulfillment is both an important goal and an indicator of the quality of programs and of the school as a workplace.

So we try to measure general satisfaction and identify aspects of our programs and facilities that promote or detract from it. The goals of our stated “2020 Vision,” however, go beyond satisfaction. Four main goals are: 1) to foster an Academia—that is, a cooperating community of learners (including both students and teachers); 2) to make school life “colorful”—that is, to ensure that the educational experiences we provide are as engaging and stimulating as possible; 3) to value and foster each student’s unique personal individuality and originality, in order to; 4) educate innovative thinkers. We must carefully analyze the data we have here in order to assess our progress towards these goals and to find ways to move closer to them.

I would like to thank the staff members who helped carry out this survey, as well as the many people who participated in it.

June, 2017

Kanazawa Technical College  
Lewis Barksdale, President

# 全体概略

## ■調査の目的

本調査は下記の目的に従って実施した。

- 本調査は金沢高専の現在の状況を把握し、今後の教育改善を考えるための情報を収集することを主目的とする。
- この調査企画では、在學生と教職員に金沢高専の評価を聞き、各々の意識の違いを見いだすことで、今後の学校づくりを考えるためのヒントを得ることも目的とする。そして、今回は卒業生にも調査を実施している。
- 本調査は平成15年度から続いており、今回で14回目となる。
- 平成17年度の調査までは年度末(2月初旬)に実施しており、平成18年度と平成19年度は9月中旬の実施に変更したが、平成20年度からは年度末の実施に戻している。

## ■調査の概略

項目	内容	
調査概略	調査票による自記入式調査とし、すべて無記名式とした。	
総回答数	608サンプル	
調査方法と回収数	1年生～5年生	・有効回答数 1年生:107サンプル、2年生:105サンプル、3年生:87サンプル、4年生:101サンプル、5年生:110サンプル ・各クラスで配布し、回収した。(配布&回収:平成29年2月15日)
	卒業生	・有効回答数 49サンプル(発送件数 454件、有効回収率 10.8%) ・郵送で配布、回収した。(配布:平成29年2月2日、回収締切:平成29年3月11日)
	教職員	・有効回答数 49サンプル ・各教職員に配布し、回収した。(配布:平成29年2月15日、回収締切:平成29年2月28日)
	企業担当者	・有効回答数 789サンプル(発送件数 1,818件、有効回収率 43.4%) ・郵送で配布、回収した。(配布:平成28年6月1日、回収締切:平成28年6月25日) ※報告書は別に作成
調査主体	学校法人 金沢工業大学	
集計	有限会社 アイ・ポイント	

## ■集計に関して

分野	注意点
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。</li> <li>・今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。</li> <li>・加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。</li> <li>・「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。</li> </ul>
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に本来の棒グラフでは見にくくなるため、折れ線グラフで表現しているものもある。</li> </ul>
学科別集計、呼称に関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科別の集計は「電気電子工学科」「機械工学科」「グローバル情報学科」の3つの学科で比較を行った。「グローバル情報学科」はH27年度からの新しい呼称であり、3年生から5年生は「グローバル情報工学科」の所属であるが、新しい呼称に統一している。</li> <li>・各学科の略称は「電気電子工学科」を「電気電子」もしくは「T」、「機械工学科」を「機械」もしくは「M」、「グローバル情報学科」を「グローバル」もしくは「G・J」としている。</li> </ul>

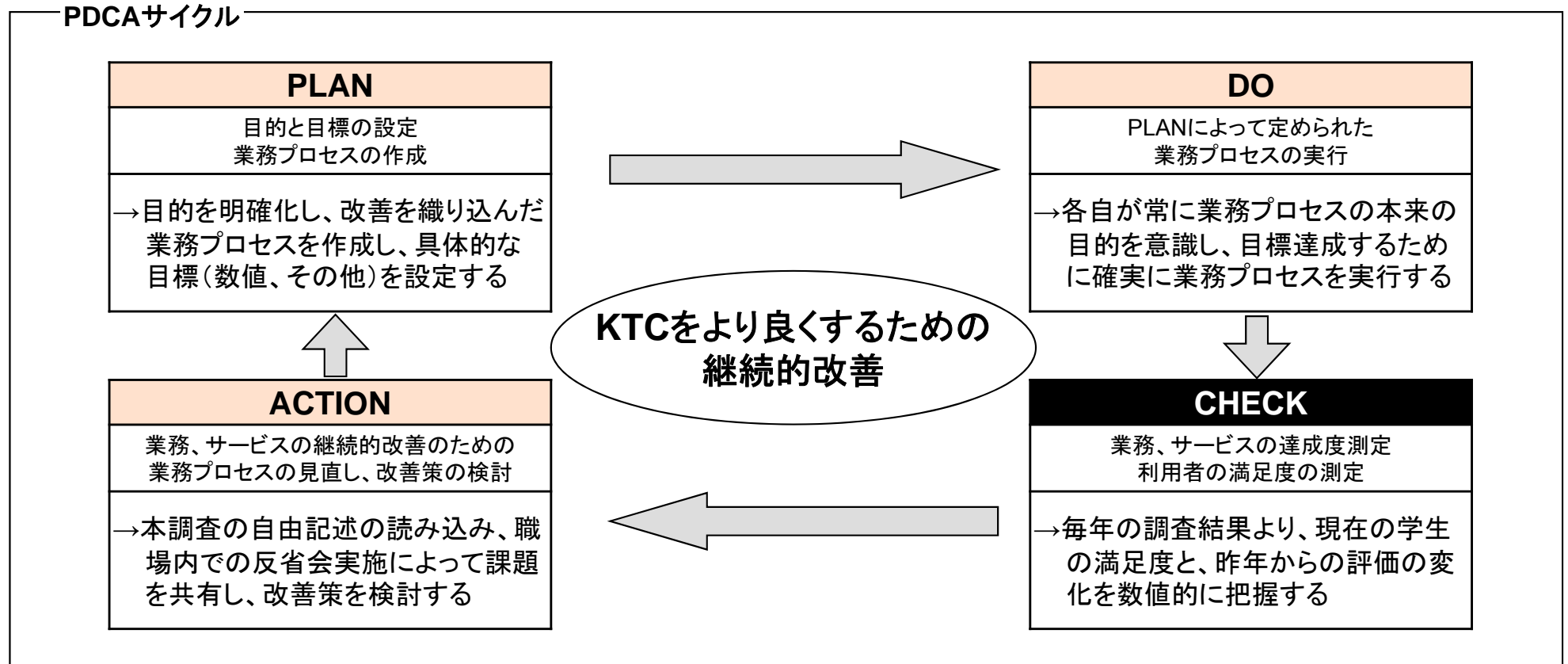
## ■回答者数に関して

学年	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度 (今回分)
1年	140人	135人	122人	121人	92人	110人	81人	115人	134人	130人	112人	111人	112人	107人
2年	127人	135人	130人	117人	108人	105人	104人	79人	113人	128人	120人	108人	106人	105人
3年	113人	98人	113人	113人	88人	95人	92人	80人	63人	93人	108人	100人	93人	87人
4年	121人	109人	113人	121人	114人	103人	103人	102人	91人	76人	101人	116人	107人	101人
5年	129人	116人	101人	105人	124人	111人	96人	99人	98人	85人	75人	96人	107人	110人
卒業生	66人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	77人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	73人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	49人
教職員	50人	56人	48人	50人	52人	59人	53人	62人	55人	55人	48人	59人	44人	49人
企業 担当者	65人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	36人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	71人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	789人
合計	811人	649人	627人	627人	578人	696人	529人	537人	698人	567人	564人	590人	569人	608人

# PDCAサイクルに関して

## ■PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

本報告書は下記のような業務改善の流れの中で、CHECKステップに位置づけられる。



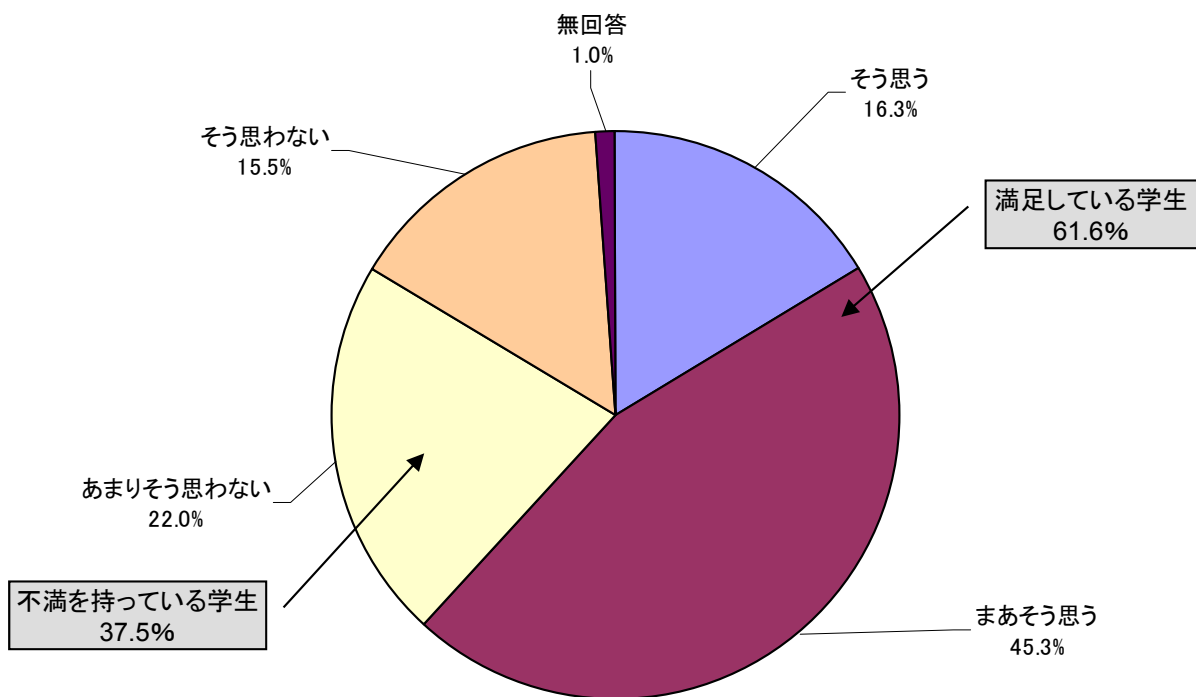
- 今回の調査によって得られた「学生の満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- この報告書で得られた結果はあくまでもアンケート結果を統計的に分析し、その結果に妥当と思われる理由をつけ加えた「仮説」であり、その検証と活用は今後の「ACTIONステップ」で行うことになる。
- また、ここで得られた数値的な結果を解釈し、金沢高専の改善に役立てるのは、実際に現場で教育や学校運営に携わっているメンバーが行うことであり、この報告書はその参考として位置づけられるものである。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見ることが主眼となる。
- 本報告書は、上記のような位置づけを継続していくことで、金沢高専の改善に資することを目的としている。

# 金沢高専の総合的な満足度

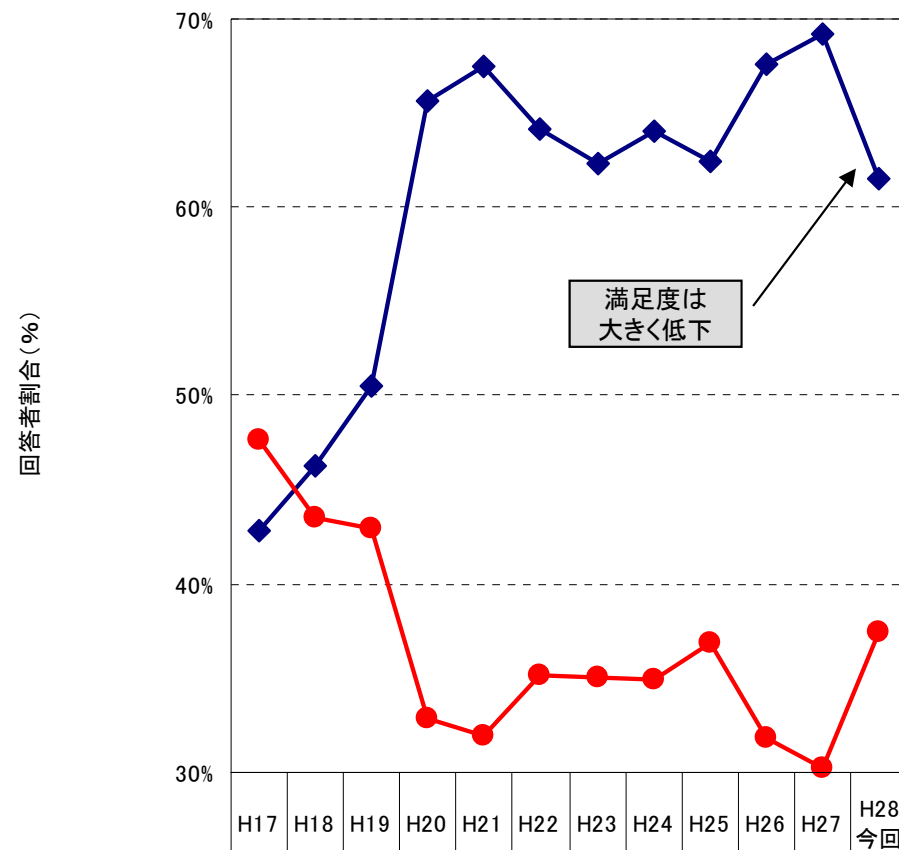
## ■本年度の総合的な満足度

- 「総合的に見て金沢高専に満足していますか？」に関しては、「そう思う」が16.3%、「まあそう思う」が45.3%であり、合わせると61.6%が金沢高専に満足していると答えていた。一方、不満を持っているという回答の合計は37.5%であった。
- 「満足している学生」と「不満を持っている学生」の年度別比較を見ると、「満足している学生」は前回は7.5ポイント下回り、H20以降で最低となった。そして、「不満を持っている学生」は前回は7.2ポイント上回った。

■総合的に見て金沢高専に満足していますか？（在校生のみ）



■金沢高専の総合的満足度 年度別比較



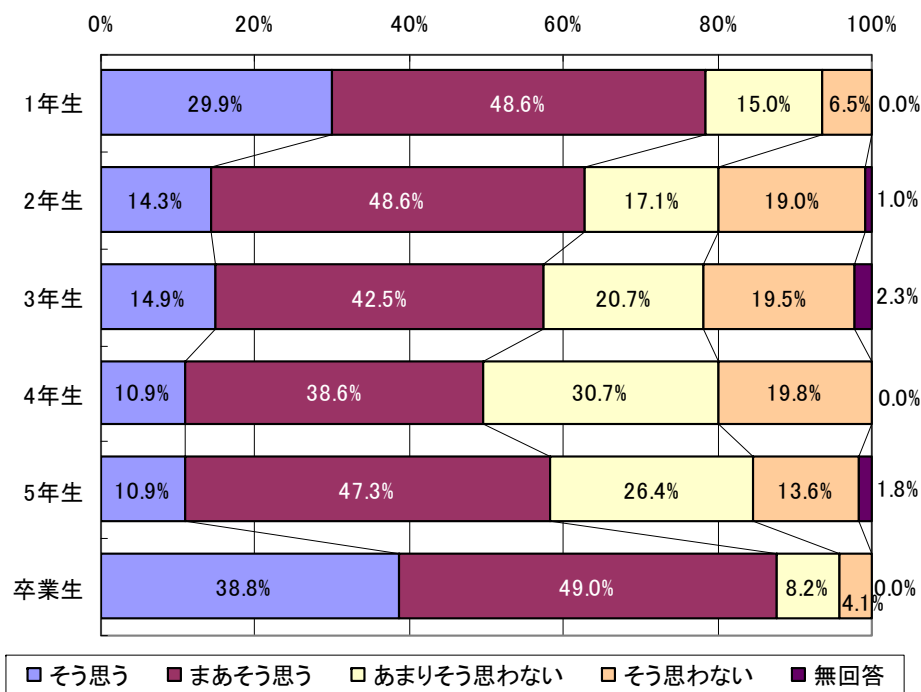
◆ 満足している学生	42.8%	46.3%	50.6%	65.7%	67.5%	64.2%	62.3%	64.1%	62.4%	67.6%	69.1%	61.6%
● 不満を持っている学生	47.7%	43.5%	43.0%	32.8%	31.9%	35.2%	35.1%	35.0%	36.8%	31.8%	30.3%	37.5%



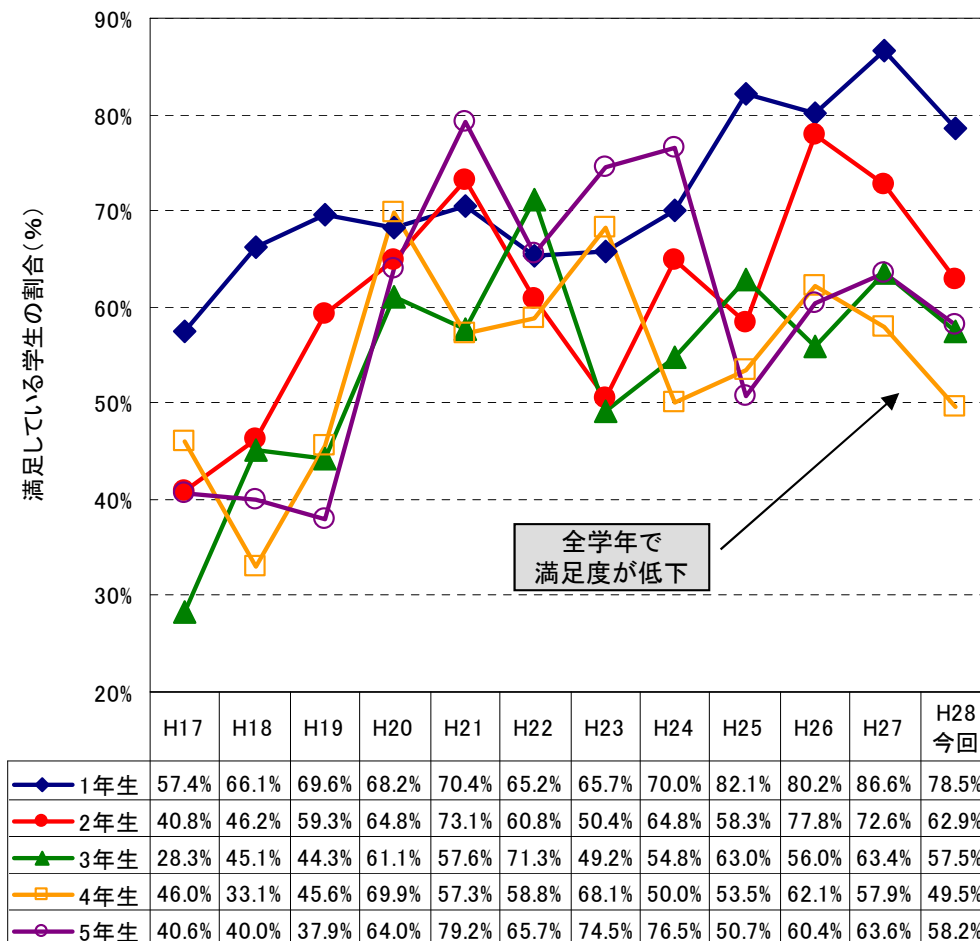
## ■総合的満足度の学年別比較

- 「高専の総合的満足度」の学年別比較を見ると、「1年生」では78.5%が満足と答えており、最も満足度が高かった。続いて、「2年生」が62.9%、「3年生」が57.5%、「4年生」が49.5%と最も低くなっており、「1年生」と「4年生」の差は29.0ポイントであった。そして、「4年生」までは高学年ほど満足度が低下しているが、「5年生」になると58.2%とやや高くなっていった。
- 学年別・年度別に満足している学生の割合を見たところ、今回は全学年で満足度が低下していた。最も大きく低下していたのは「2年生」の9.7ポイントであり、最も低下が少なかった「5年生」でも5.4ポイントの低下であった。
- 「4年生」は前回より8.4ポイントの低下であったが、低さが目立ったH24年をわずかに下回り、H20年以降で最も低い満足度となった。

### ■金沢高専の総合的満足度 学年別比較



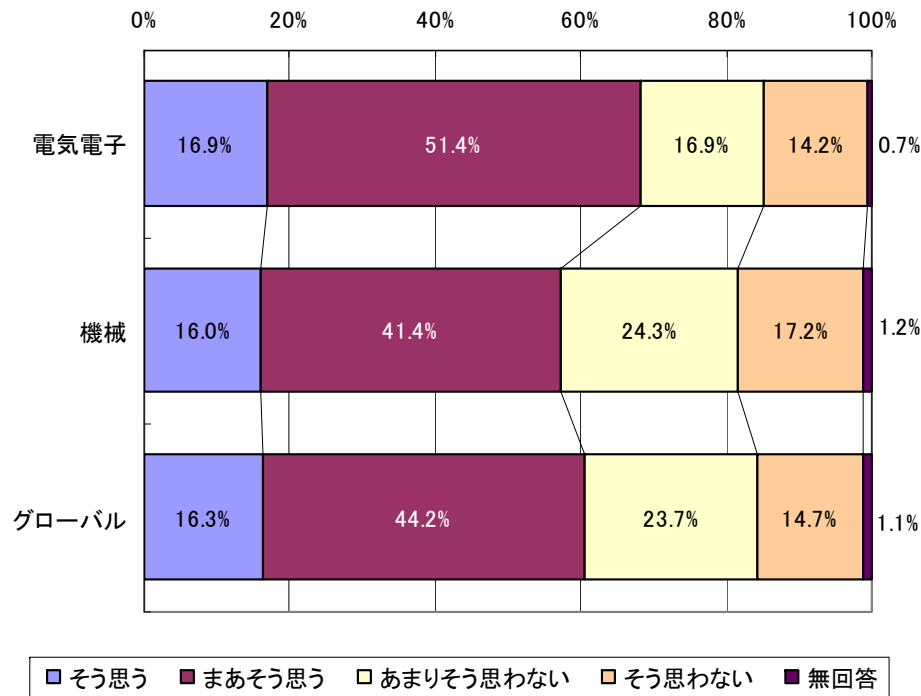
### ■金沢高専の総合的満足度 学年別・年度別比較



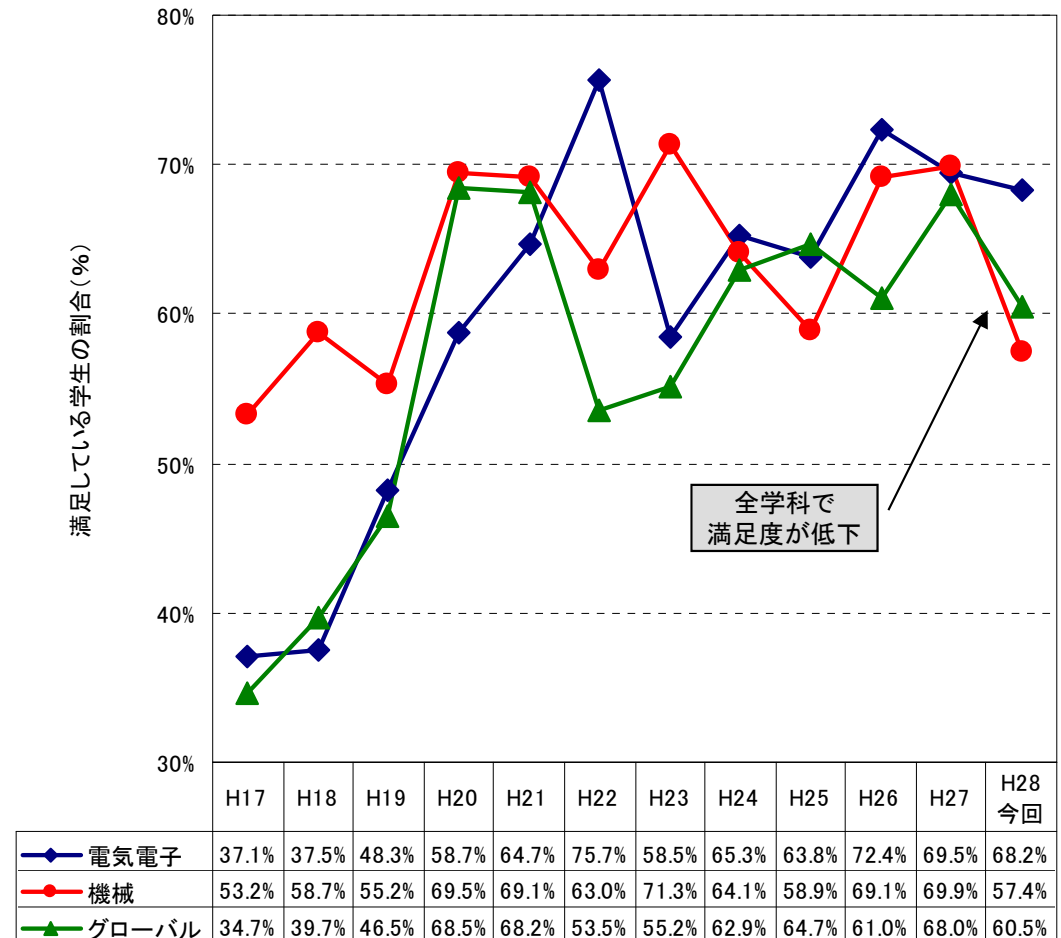
## ■総合的満足度の学科別比較

- 「高専の総合的満足度」を学科別に比較したところ、「満足」という回答は「電気電子」が68.2%で最も多く、次いで、「グローバル」が60.5%、「機械」が57.4%と続いていた。最も満足度が高い「電気電子」と、最も低い「機械」の差は10.8ポイントであった。そして、「そう思う」だけを見ると、学科の差はほとんど見られなかった。
- 年度別の比較を見ると、全学科で「満足」という回答は前回を下回っていた。最も大きく満足度が低下していたのは「機械」の12.5ポイントであり、H20年以降で最も低い満足度となった。そして、「グローバル」が7.5ポイント、「電気電子」が1.3ポイントの低下となった。

### ■金沢高専の総合的満足度 学科別比較(在学生のみ)



### ■金沢高専の総合的満足度 学科別・年度別比較

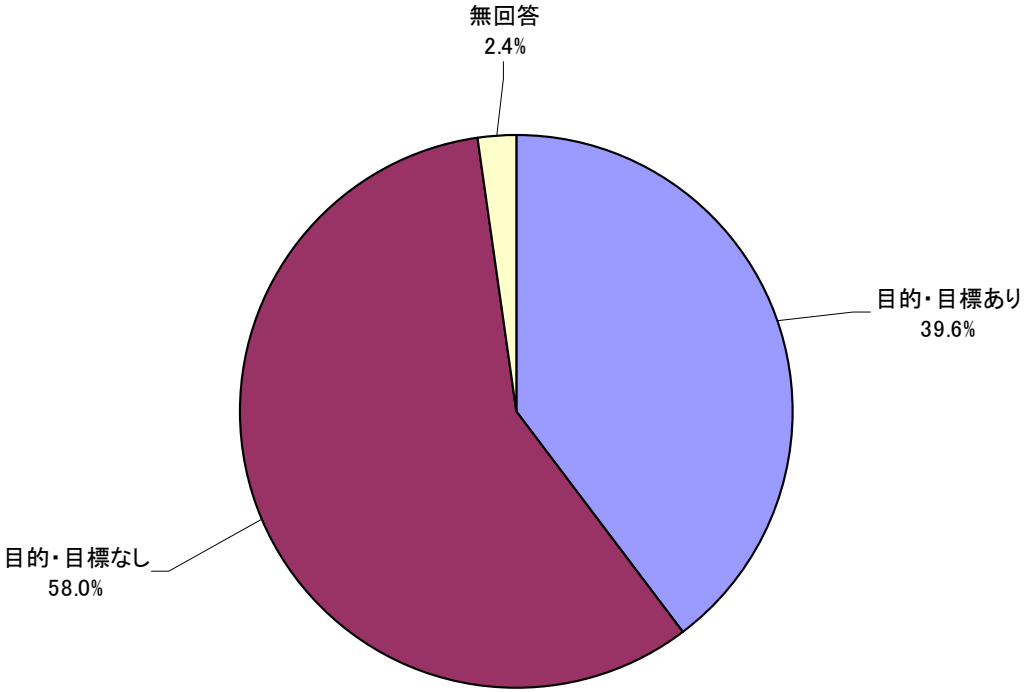


# 目的・目標に関する意識に関して

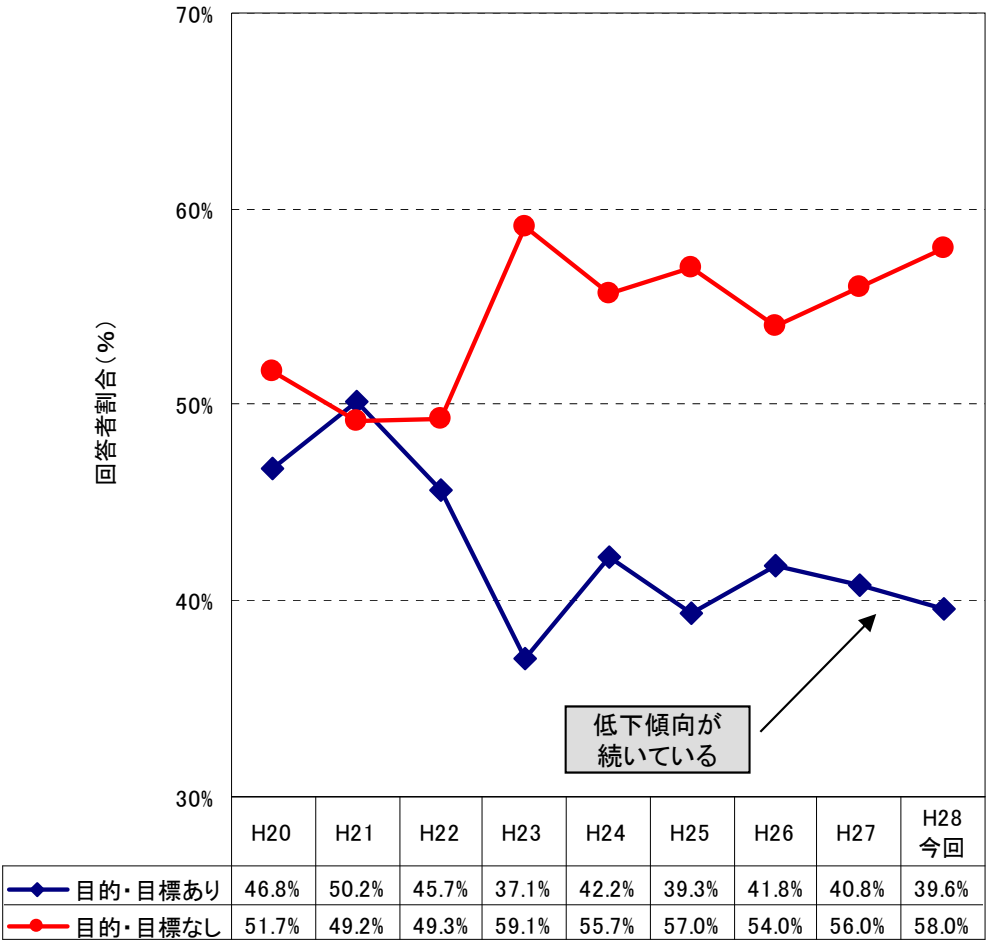
## ■在学中の「目的・目標」の意識

- 「高専生活を送る上で何らかの目的・目標を持っていますか？」に対しては、「目的・目標あり」が39.6%、「目的・目標なし」が58.0%となり、「目的・目標なし」の方が18.4ポイント多かった。
- 年度別に比較すると、「目的・目標あり」は変化は少ないもののH26から減少する傾向が続いており、前回は1.2ポイント下回っていた。そして、「目的・目標なし」は前回は上回っており、H23に次いで過去2番目の多さとなっていた。

■在学中の「目的・目標」の意識



■在学中の「目的・目標」の意識 年度別比較

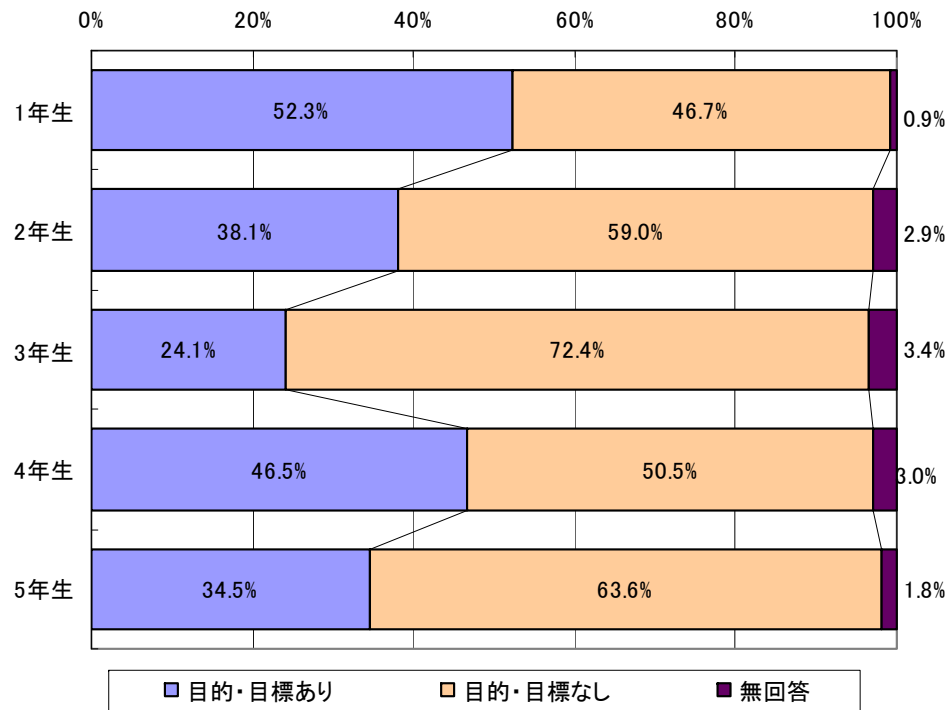


低下傾向が続いている

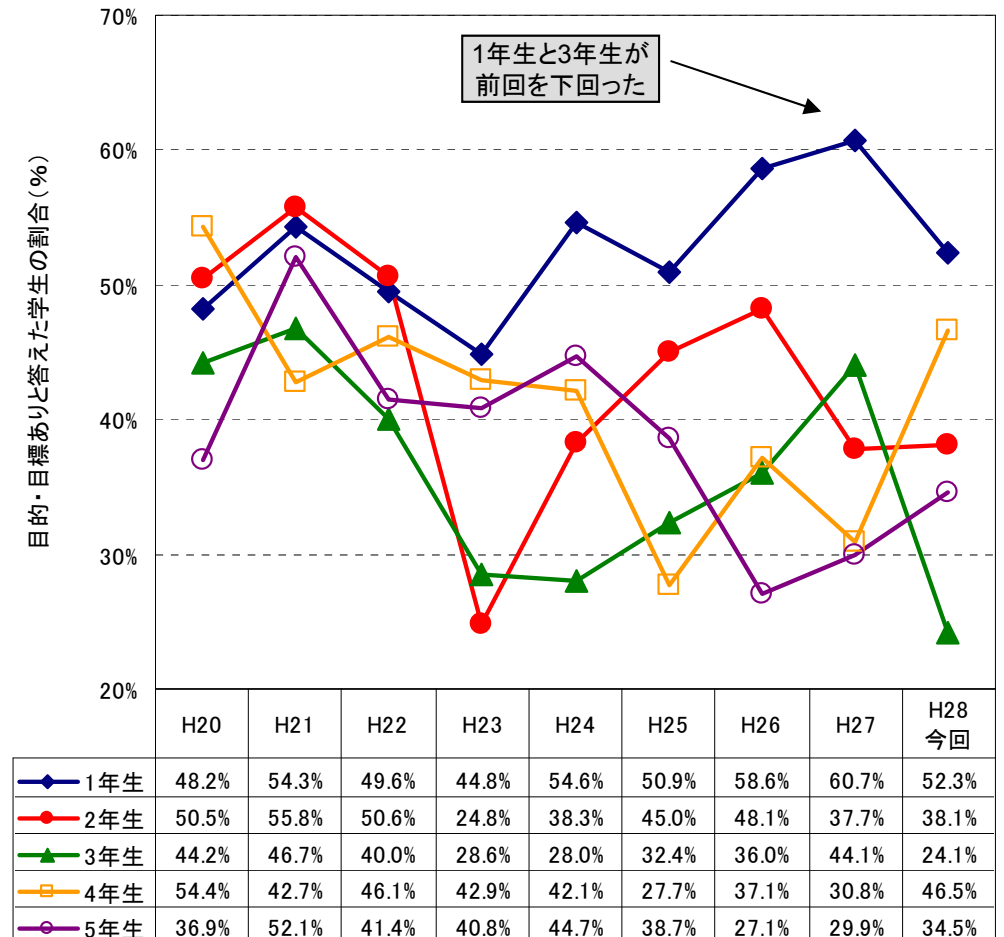
## ■「目的・目標」の意識の学年別比較

- 「目的・目標あり」の割合を学年別に比較すると、「1年生」が52.3%と最も高く、唯一、5割を超えていた。学年順に見ると「2年生」が38.1%、「3年生」が24.1%で最も低くなっていた。そして、「4年生」が46.5%、「5年生」が34.5%となり、高学年では学年との相関関係は見られなかった。
- 年度別の変化を見ると、「1年生」と「3年生」が前回は大きく下回っており、特に「3年生」はこれまでで最も低くなっていた。一方、「4年生」と「5年生」は前回は上回っており、「4年生」は過去2番目の高さとなっていた。そして、「2年生」はほぼ横這いであった。

### ■在学中の「目的・目標」の意識 学年別比較



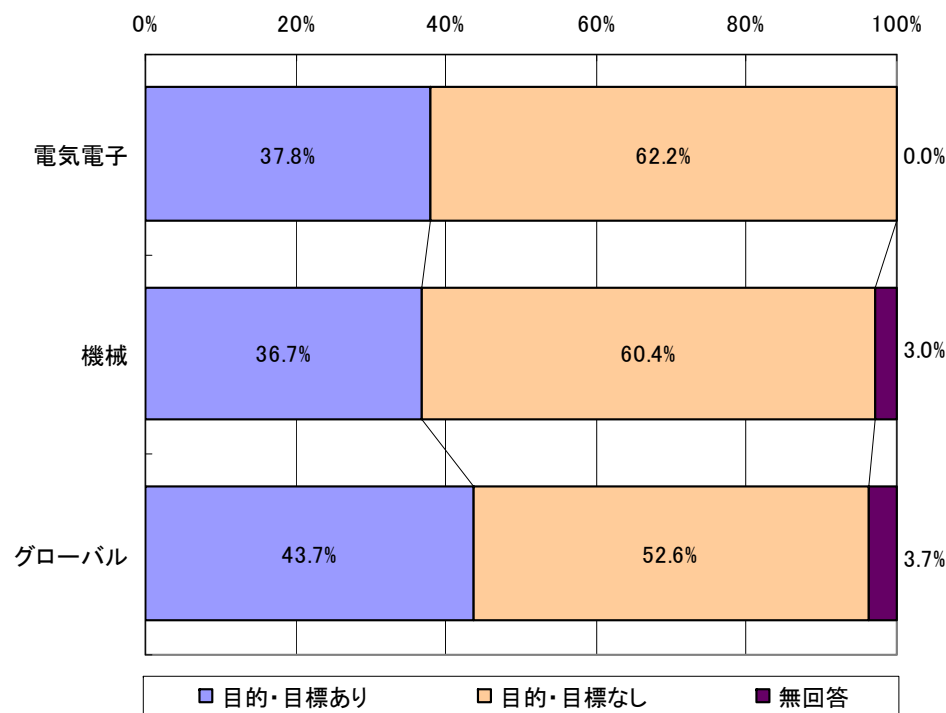
### ■在学中の「目的・目標」の意識 学年別・年度別比較



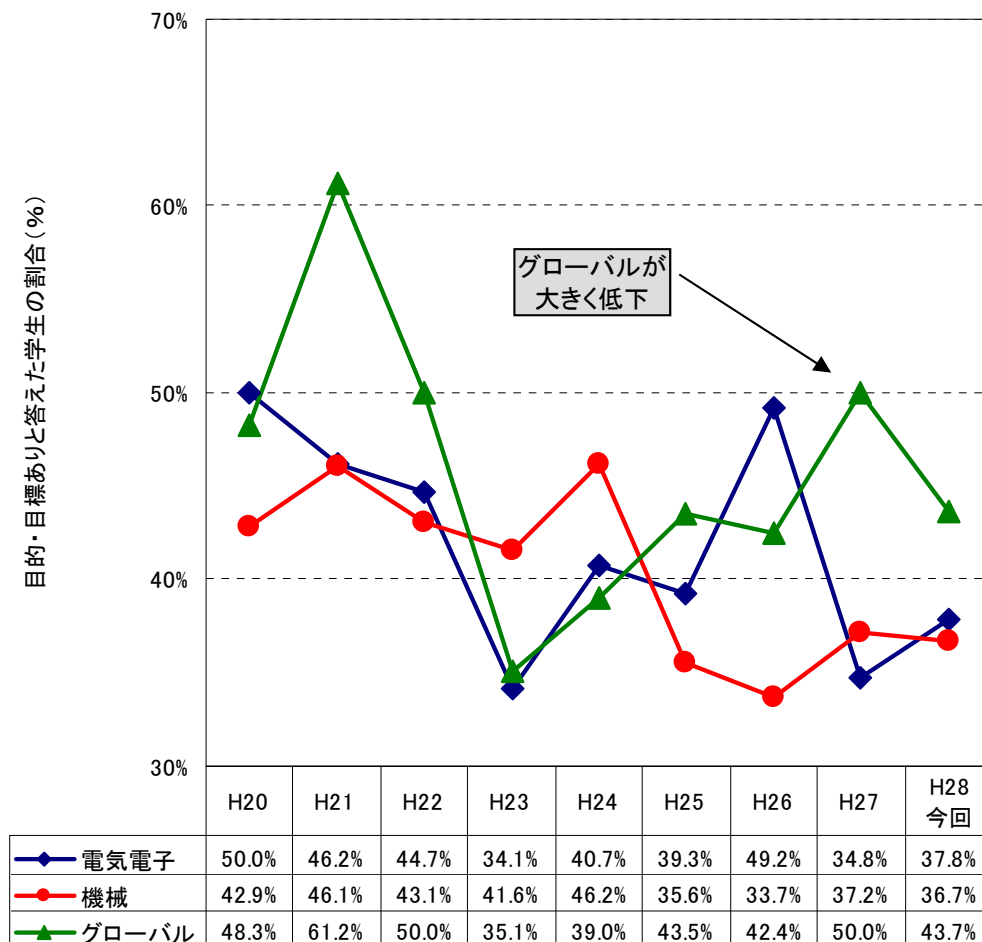
## ■「目的・目標」の意識の学科別比較

- 学科別に「目的・目標あり」の割合を比較すると、「グローバル」が43.7%と最も高く、「電気電子」が37.8%、「機械」が36.7%であり、「グローバル」と「機械」の差は7.0ポイントであった。
- 年度別に比較すると、「グローバル」が前回より大きく低下している点が目立っており、低下は6.3ポイントであった。他の2学科の変化は小さく、「電気電子」は前回より3.0ポイントの増加、「機械」は0.5ポイントの低下となった。「グローバル」と「電気電子」は年度による変動が大きかったが、「機械」はH25から継続的に低い状態が続いていた。

### ■在学中の「目的・目標」の意識 学科別比較



### ■在学中の「目的・目標」の意識 学科別・年度別比較

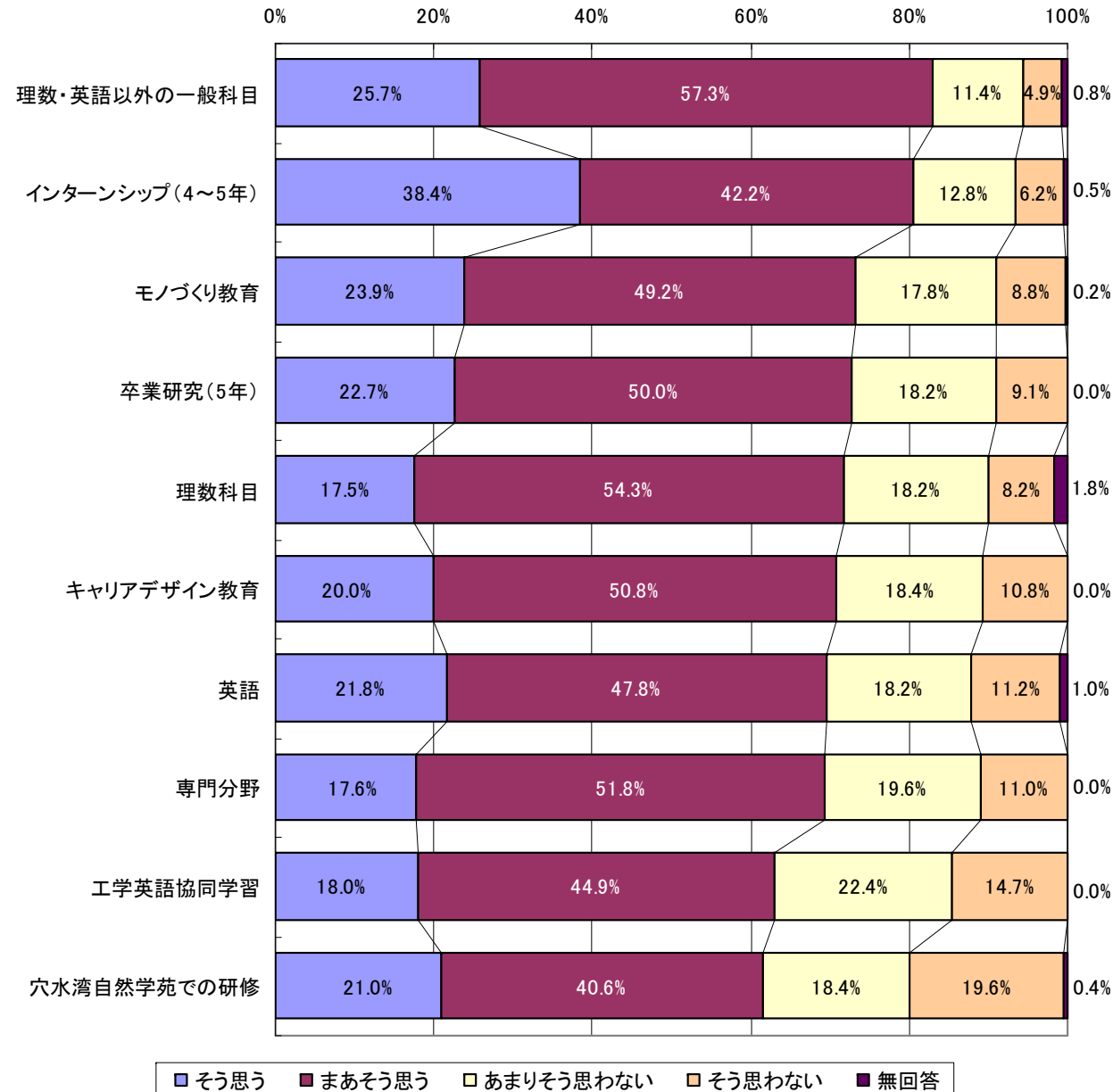


# 授業に関して

## ■授業に対する評価

- 「授業に対する満足度」で、最も満足度が高かったのは「理数・英語以外の一般科目」であり、83.0%が満足と答えていた。次いで、「インターンシップ」が80.6%であり、満足度が8割を超えたのは2科目であった。「インターンシップ」は「そう思う」が38.4%であり、他を大きく上回っていた。
- 上記に続いて「モノづくり教育」が73.1%、「卒業研究」が72.7%、「理数科目」が71.8%、「キャリアデザイン教育」が70.8%となっていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「穴水湾自然学苑での研修」の61.6%であり、不満という意見は38.0%であった。

## ■授業に対する満足度（在学生のみ）

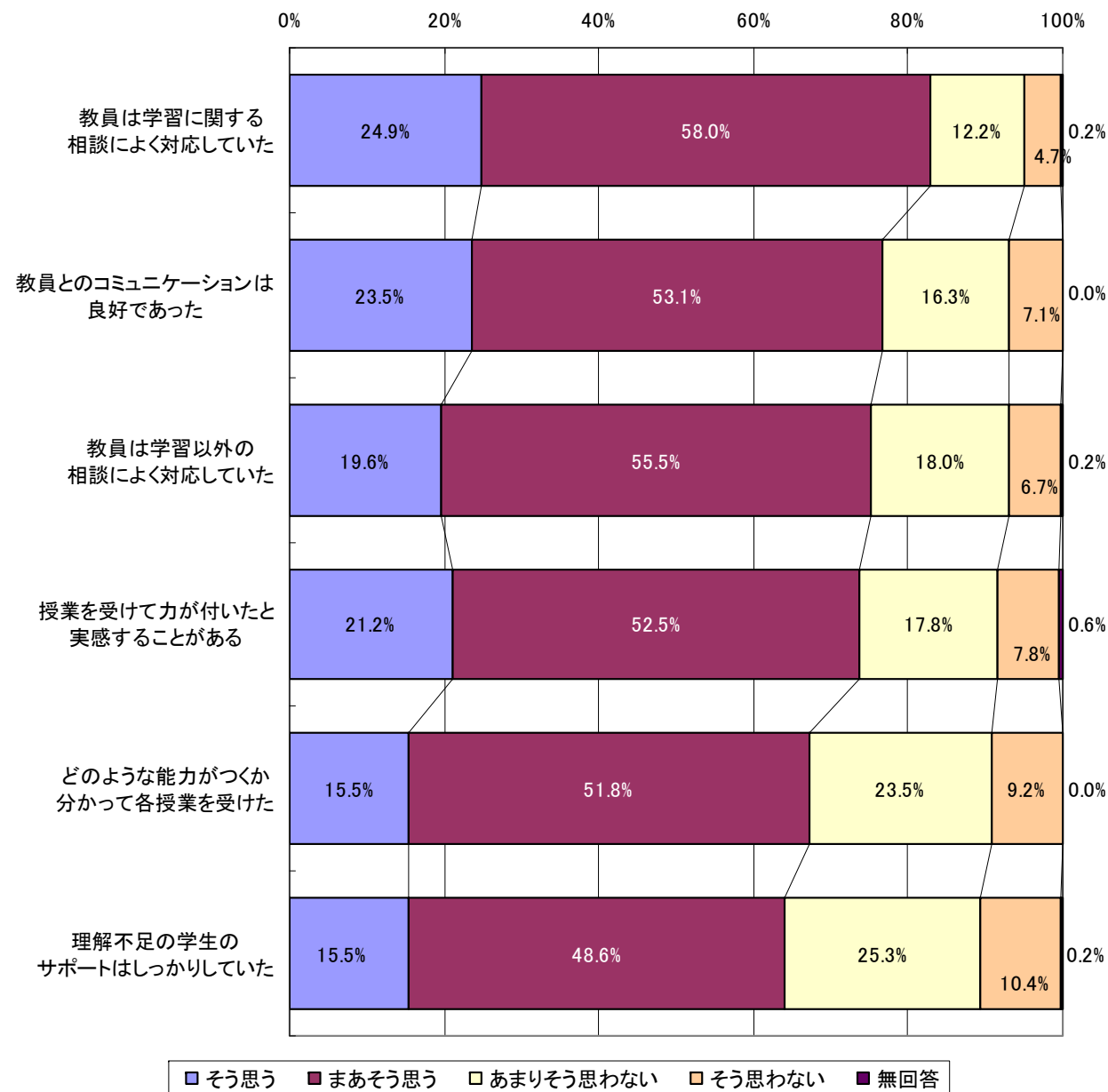


# 教員および学習支援に関して

## ■教員および学習支援の満足度

- 教員および学習支援で最も満足度が高かったのは「教員は学習に関する相談によく対応していた」であり、82.9%が満足という回答であった。
- 上記に次いで「教員とのコミュニケーションは良好であった」が76.6%、「教員は学習以外の相談によく対応していた」が75.1%と続いていた。
- 一方、最も評価が低かったのは「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」であり、肯定的な意見は64.1%であった。そして、「どのような能力がつくか分かって各授業を受けた」が67.3%となっていた。

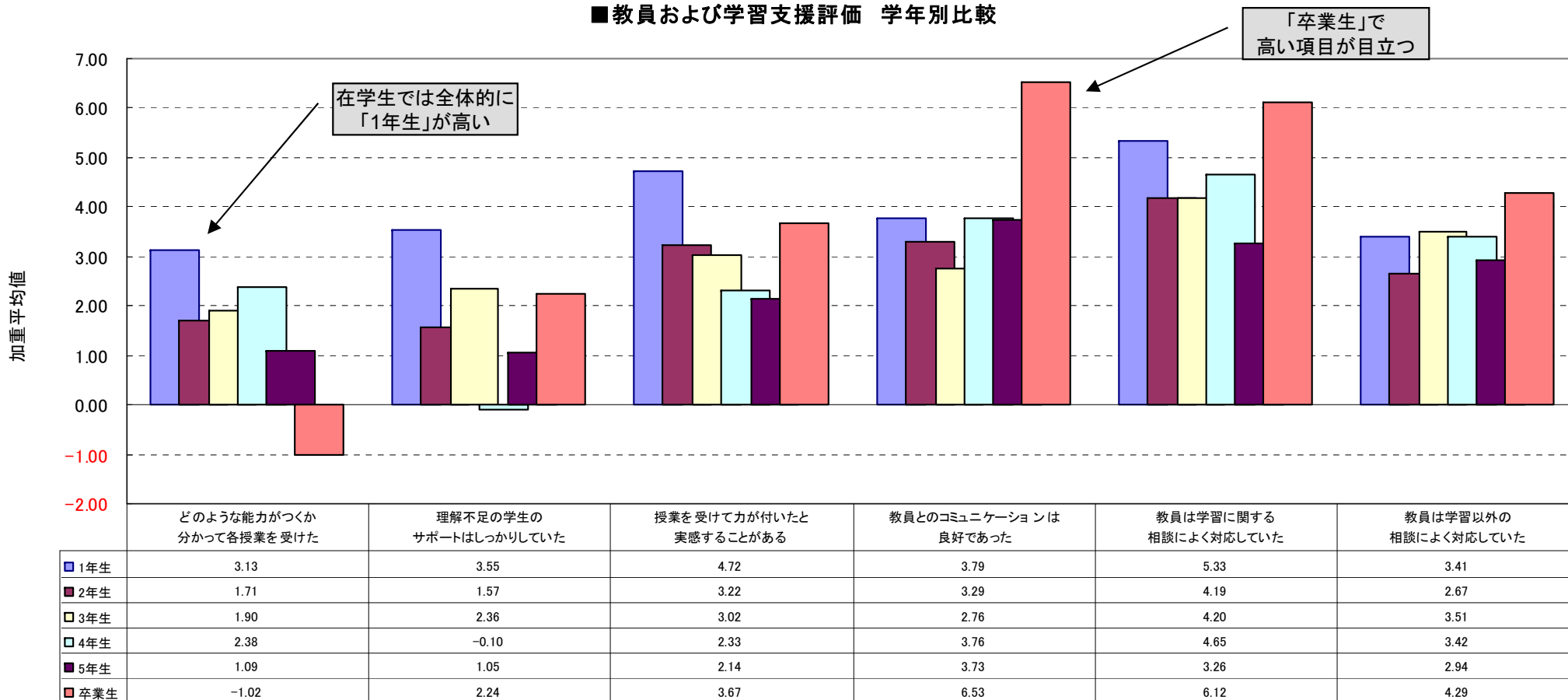
## ■教員および学習支援の満足度（在学生のみ）



## ■教員および学習支援の満足度の学年別比較

- 学年別に比較したところ、在学生ではほとんどの項目で「1年生」の評価が最も高く、「卒業生」でいくつか高いものが見られた。
- 在学生では「教員は学習以外の相談によく対応していた」を除いたすべての項目で「1年生」の満足度が最も高かった。特に「どのような能力がつか分かって各授業を受けた」「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」「授業を受けて力が付いたと実感することがある」が高く、授業が充実している様子が見えられた。
- 「卒業生」は「教員とのコミュニケーションは良好であった」が非常に高い点が特徴的であり、「教員は学習に関する相談によく対応していた」「教員は学習以外の相談によく対応していた」も高いなど、教員との関係が非常に良かったと感じているようであった。ただし、「どのような能力がつか分かって各授業を受けた」はマイナスとなっており、この点は不満に感じているようであった。
- 在学生で学年との相関関係が見られたのは「授業を受けて力が付いたと実感することがある」であり、高学年ほど満足度が低下する傾向が見られた。

■教員および学習支援評価 学年別比較

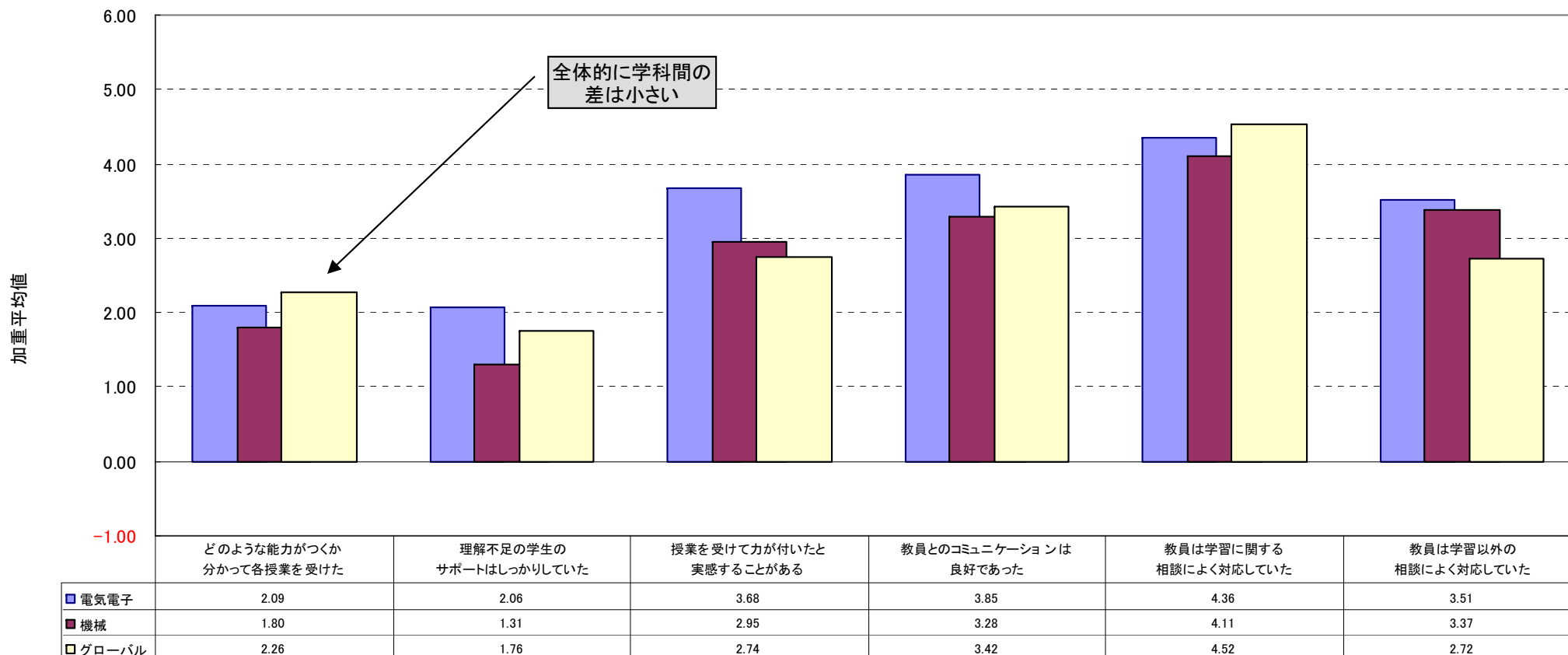




## ■教員および学習支援の満足度の学科別比較

- 学科別に教員および学習支援の満足度を比較したところ、学科間の差は少なく、特定の学科が全体的に高いという傾向は見られず、よく似た評価となっていた。
- 「電気電子」は「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」「授業を受けて力が付いたと実感することがある」と「教員とのコミュニケーションは良好であった」が高かった。また、「教員は学習以外の相談によく対応していた」もやや高いなど、教員に関する項目が高めであった。
- 「機械」は目立って高いものは見られなかった。そして、「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」の低さがやや目立っていた。
- 「グローバル」は差は少ないものの「どのような能力がつか分かって各授業を受けた」と「教員は学習に関する相談によく対応していた」がやや高かった。そして、「教員は学習以外の相談によく対応していた」がやや低かった。

■教員および学習支援評価 学科別比較

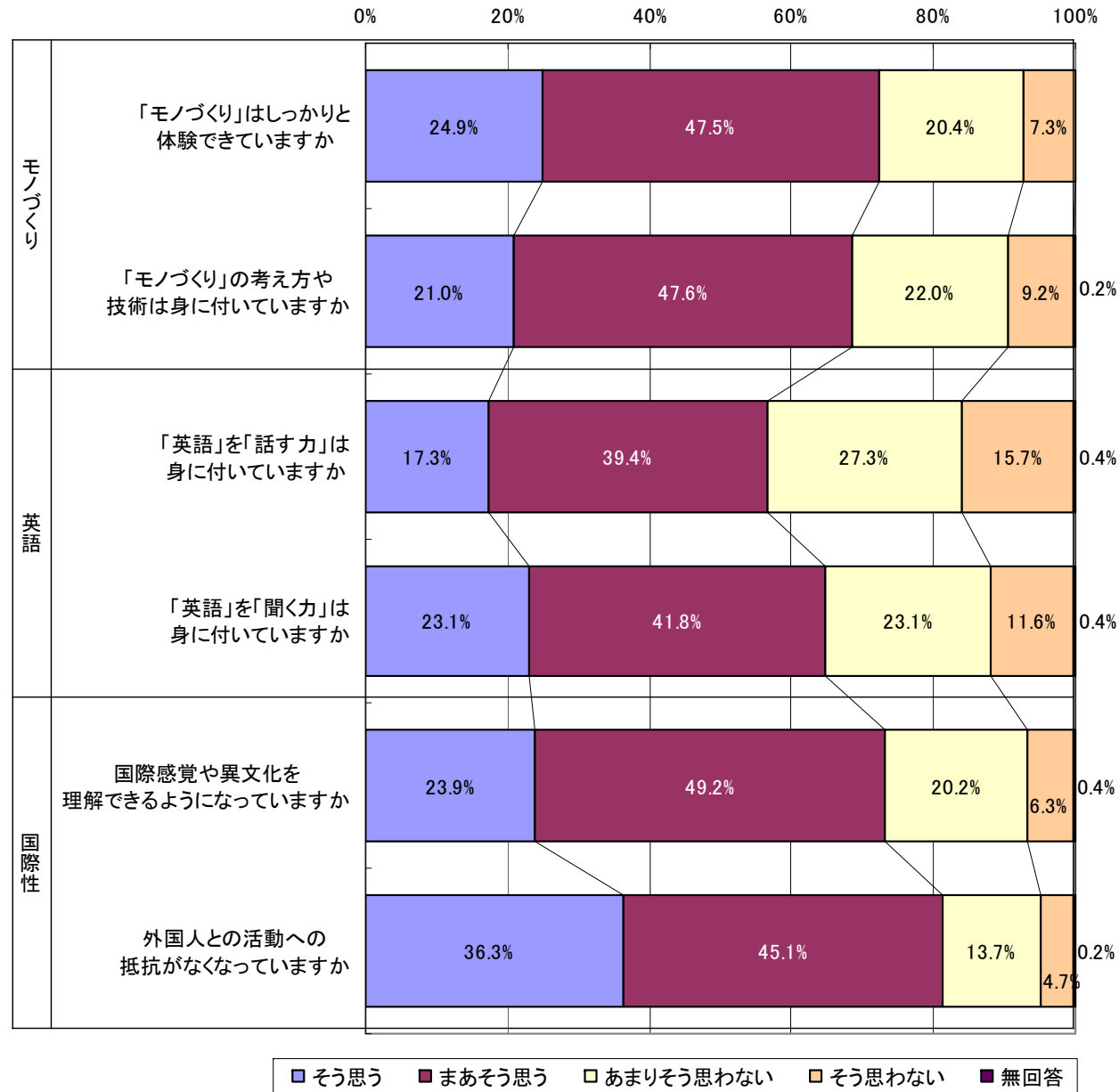


# 「モノづくり」「英語」「国際性」に関して

## ■「モノづくり」「英語」「国際性」に対する評価

- 「モノづくり」「英語」「国際性」の3分野の評価を確認した。
- 「モノづくり」で「しっかりと体験できていますか」という問いに対しては、「そう思う」が24.9%、「まあそう思う」が47.5%であり、合わせると72.4%が肯定的な意見となっていた。そして、「モノづくりの考え方や技術は身に付いていますか」では68.6%が肯定的な意見であった。
- 「英語」に関しては、「話す力は身に付いていますか」に対しては56.7%、「聞く力」に対しては64.9%が肯定的な意見であり、「聞く力」の方が8.2ポイント多く、やや自信を持っている様子が見えられた。
- 「国際性」では「国際感覚や異文化を理解できるようになっていますか」で73.1%、「外国人との活動への抵抗がなくなっていますか」で81.4%が肯定的な意見であった。特に「外国人との活動への抵抗」では36.3%が「そう思う」と多く、外国人教師の効果が出ているようであった。

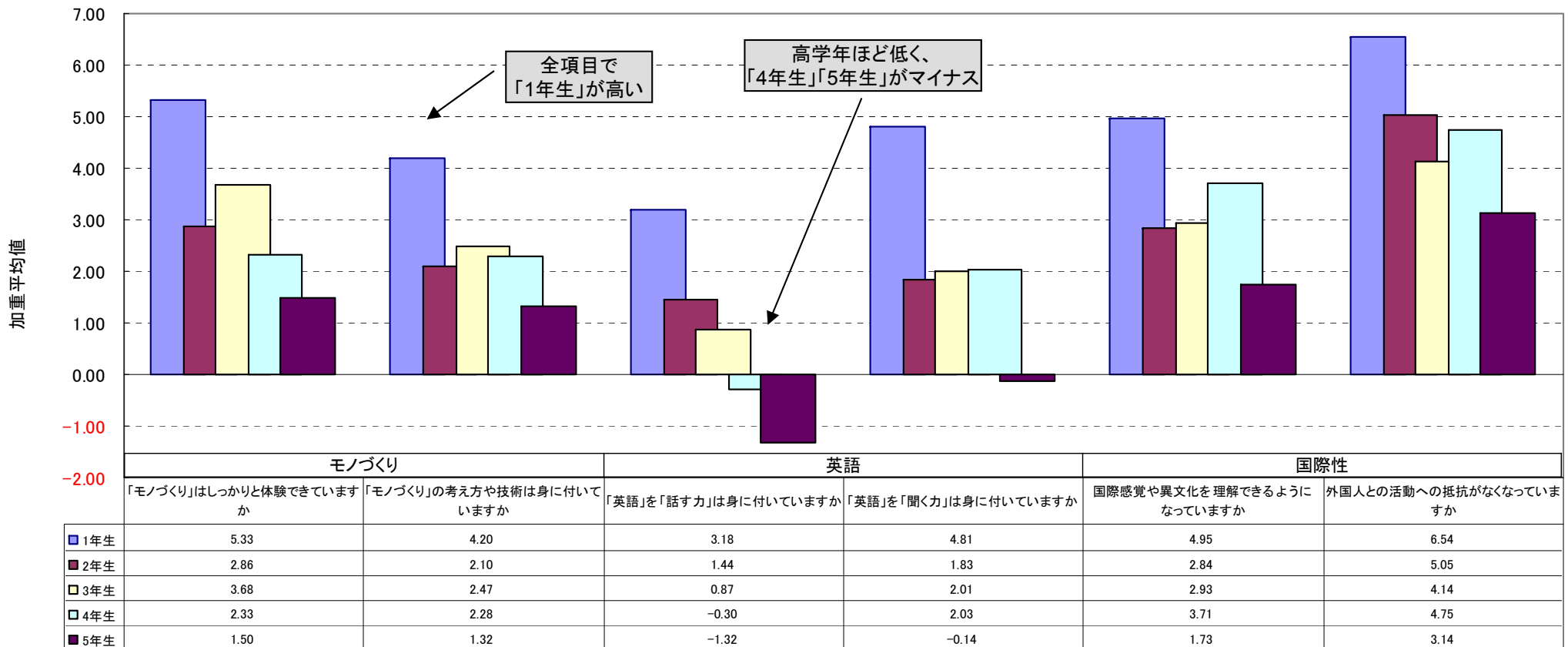
■「モノづくり」「英語」「国際性」の評価（在学生のみ）



## ■「モノづくり」「英語」「国際性」に対する評価の学年別比較

- 「モノづくり」「英語」「国際性」の評価を学年別に比較すると、全項目で「1年生」の評価が最も高かった。
- 項目別に見ると、ほとんどの項目で高学年で評価が低くなる傾向が見られ、「英語」の「話す力」は学年と相関関係となっていた。そして、「4年生」と「5年生」はマイナススコアであり、苦手意識を持っている様子がうかがえた。同じ「英語」の「聞く力」は「1年生」の高さが目立っていた。そして、「2年生」から「4年生」は同じ程度の評価となり、「5年生」がマイナスとなり極端に低かった。「英語」に関する項目は学年の差が非常に大きいという特徴が見られた。
- 「モノづくり」では大きな特徴は見られなかったが、「2年生」が低く、「3年生」が高くなっていた。また、「国際性」では「4年生」がやや高いという特徴が見られた。

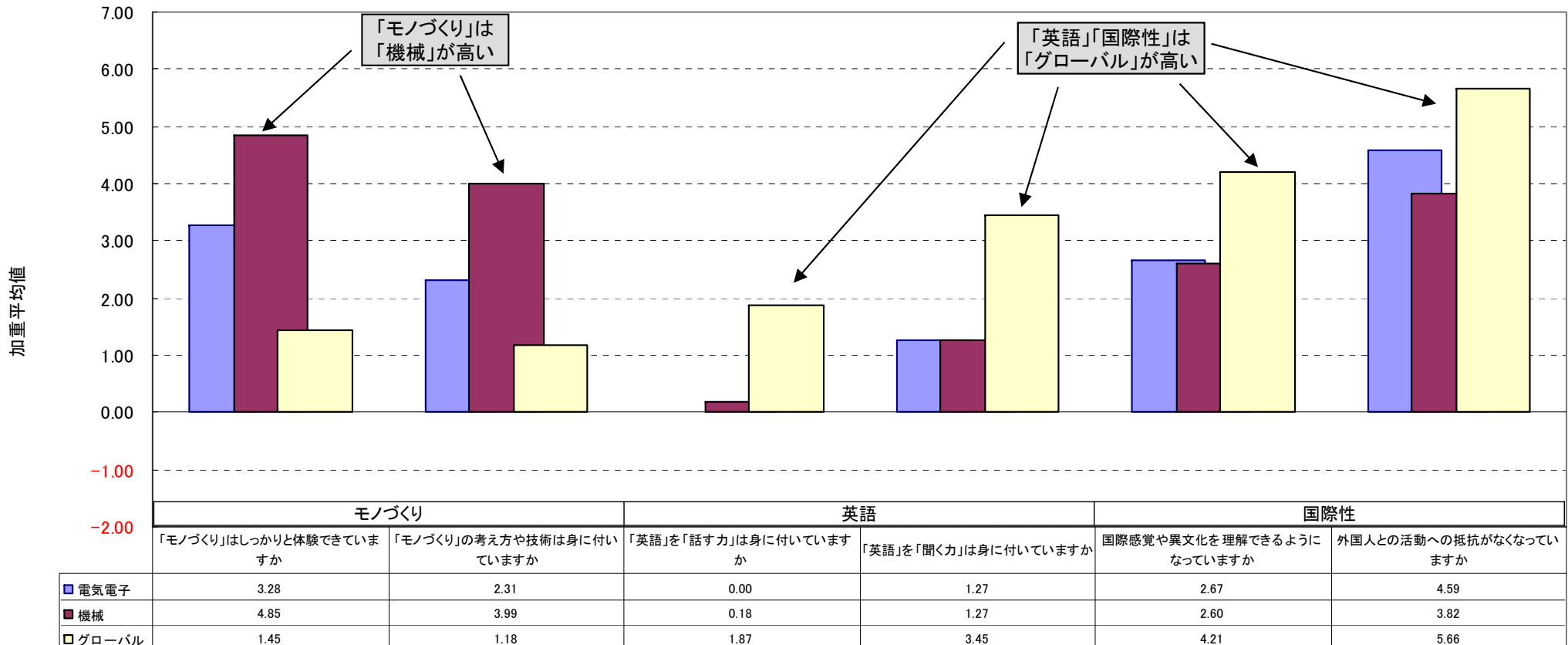
■「モノづくり」「英語」「国際性」の評価 学年別比較



## ■「モノづくり」「英語」「国際性」に対する評価の学科別比較

- 「モノづくり」「英語」「国際性」の評価を学科別に比較したところ、「モノづくり」の2項目は「機械」の評価が高く、「英語」「国際性」は「グローバル」が高くなっており、学科の特徴がよく現れていた。
- 「モノづくり」では「モノづくりはしっかりと体験できていますか」と「モノづくりの考え方や技術は身に付いていますか」の2項目共に「機械」の評価が最も高く、次いで、「電気電子」、「グローバル」の順となっており、「機械」の特徴がうかがえた。
- 一方、「グローバル」は「英語」と「国際性」の4項目の評価が最も高くなっており、ここでは「グローバル」の特徴がよく現れていた。
- 「電気電子」は特徴がみられず、全体的に中程度の評価となっており、わずかな差ではあるが「英語」の「話す力」の評価は最も低かった。

■「モノづくり」「英語」「国際性」の評価 学科別比較



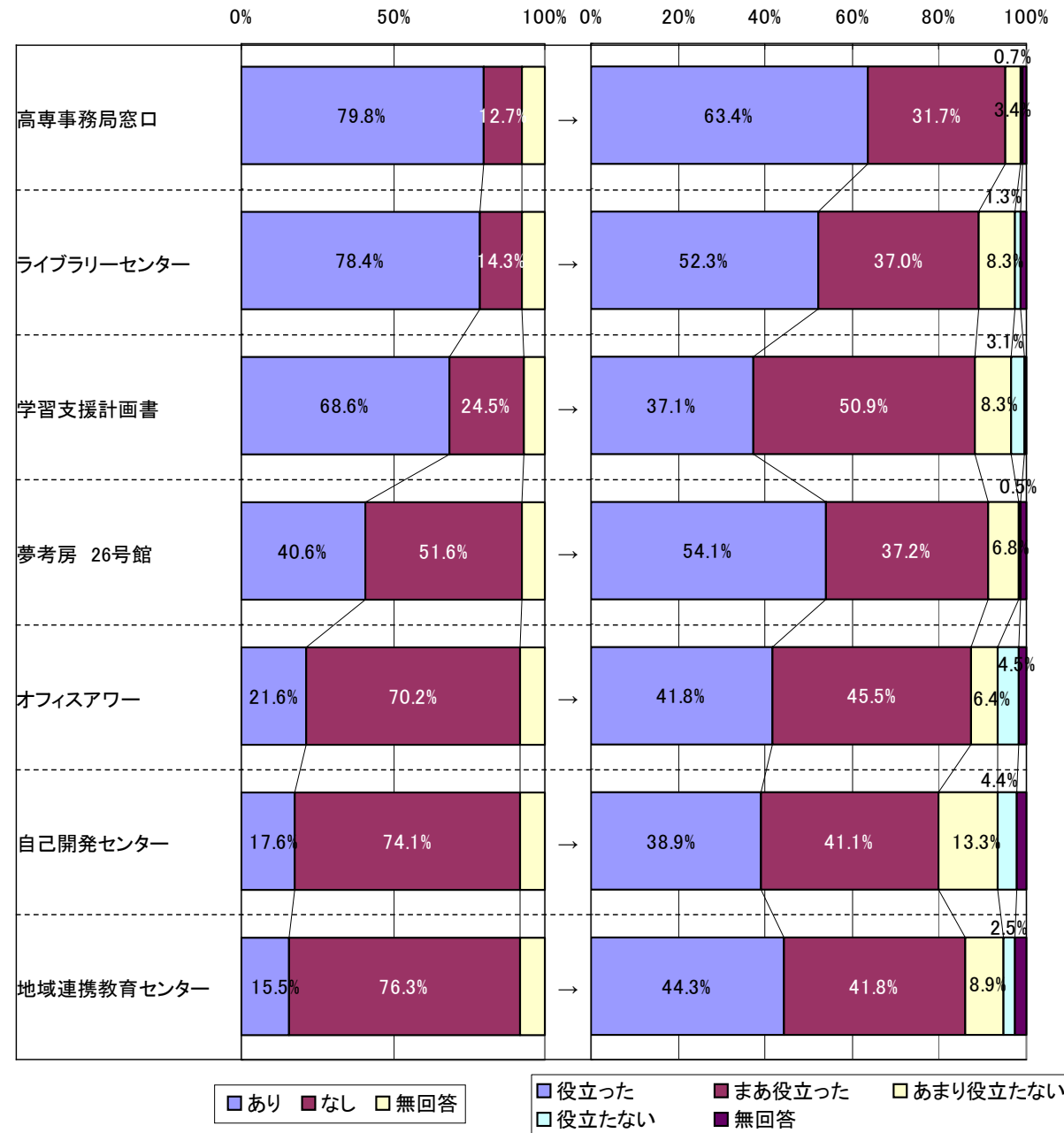
# 学生サポートに関して

## ■学生サポートの満足度

- 学生サポートの利用を見ると、最も利用率が高かったのは「高専事務局窓口」の79.8%であり、「ライブラリーセンター」が78.4%、「学習支援計画書」が68.6%と続いていた。
- 一方、利用率が最も低かったのは「地域連携教育センター」の15.5%であり、「自己開発センター」が17.8%、「オフィスアワー」が21.6%となっていた。
- 利用者に各サポートの満足度を聞いたところ、いずれのサポートでも8割以上が満足と答えており、満足度は非常に高かった。最も満足度が高かったのは「高専事務局窓口」であり、満足という回答は95.1%であった。そして、最も満足度が低い「自己開発センター」でも、満足という回答は80.0%であった。
- 特に「役立った」だけで見ると「高専事務局窓口」が63.4%、「夢考房26号館」が54.1%、「ライブラリーセンター」が52.3%と続いていた。

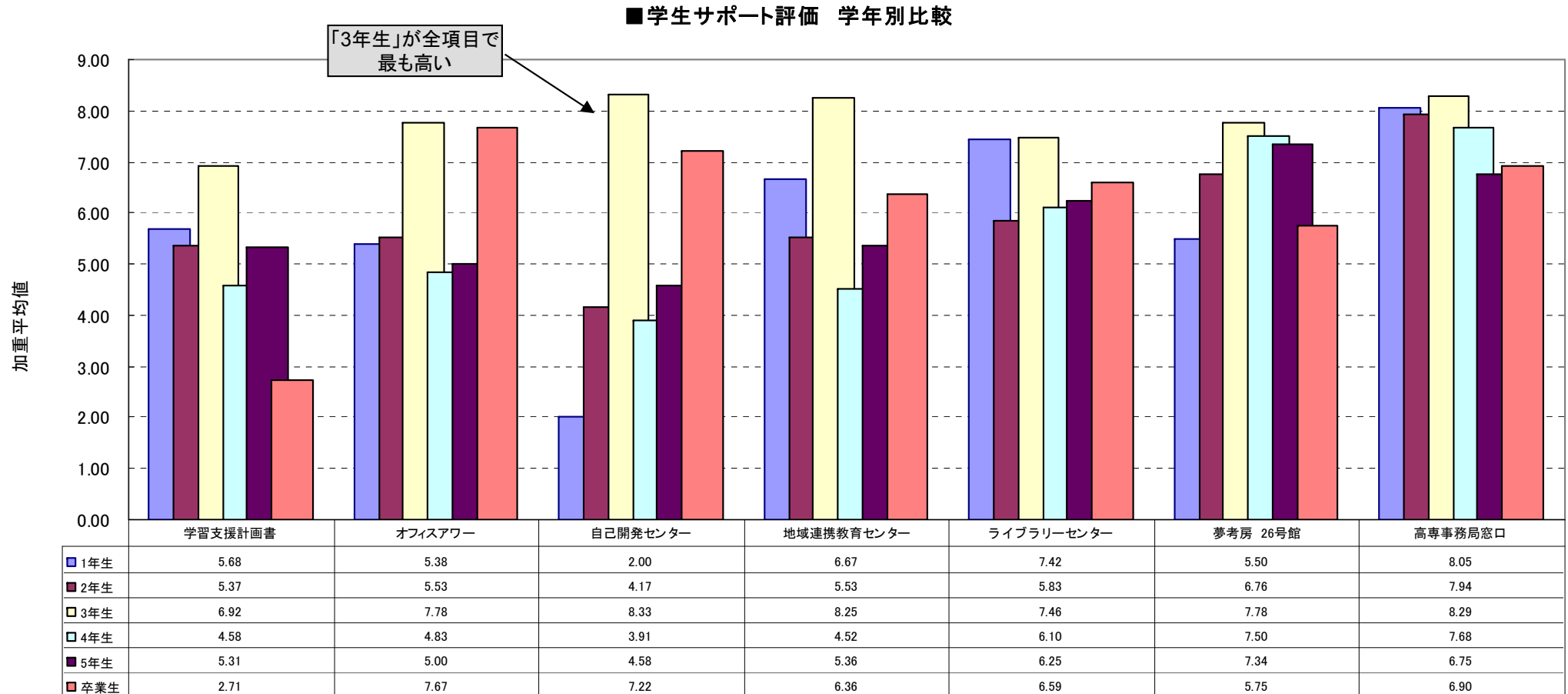
## ■学生サポートの利用の有無(左グラフ)と満足度(右グラフ)

(※満足度は利用者からの結果)



## ■ 学生サポートの満足度(利用者のみ)の学年別比較

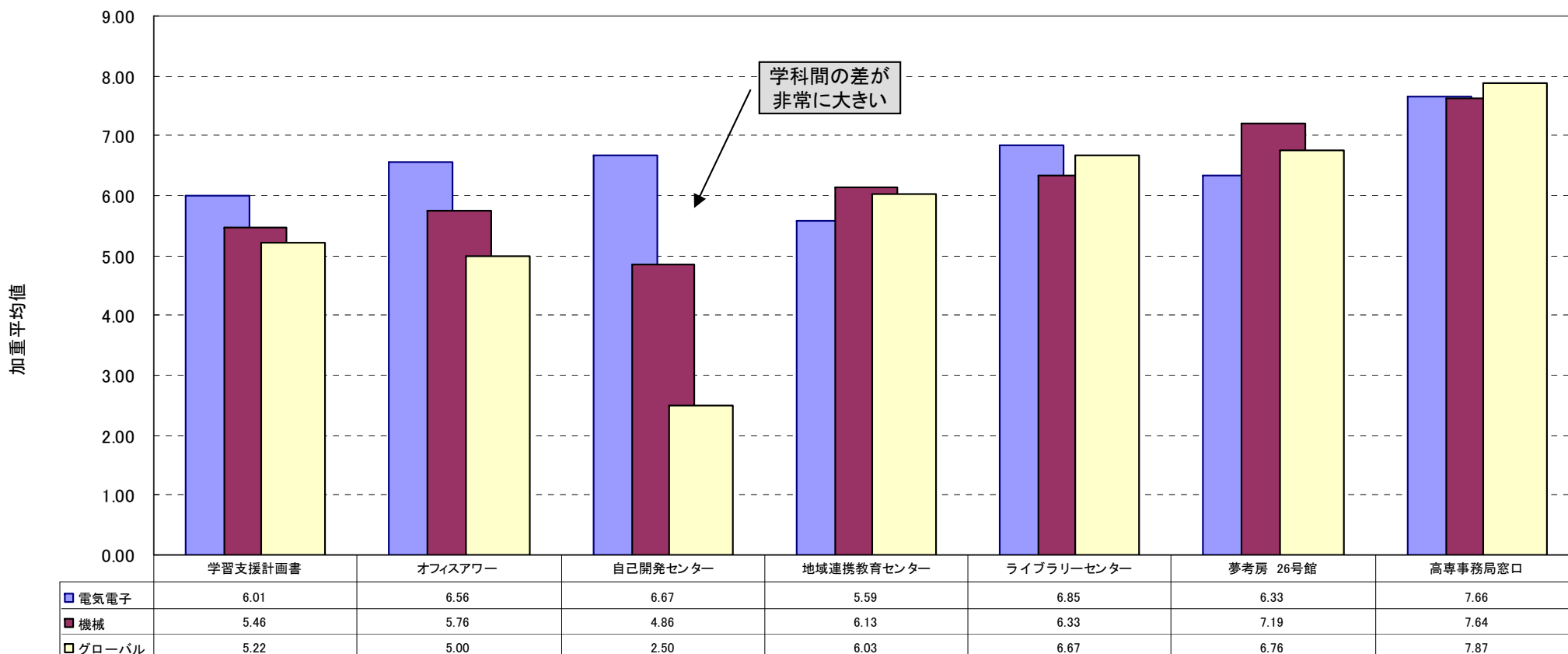
- 学生サポートの満足度を学年別に比較したところ、全項目で「3年生」の満足度が最も高かった。特に「学習支援計画書」「地域連携教育センター」は他の学年との差が大きかった。
- 「1年生」は「ライブラリーセンター」の満足度は「3年生」とほぼ同じとなり、非常に高かった。また、「学習支援計画書」「地域連携教育センター」「高専事務局窓口」は「3年生」に次ぐ高さとなっていた。そして、「自己開発センター」と「夢考房26号館」の満足度が低いという特徴も見られた。
- 「2年生」「4年生」「5年生」は特に目立ったものではなく、3学年の評価は似た傾向であった。
- 今回は「卒業生」にも調査を実施しているが、「オフィスアワー」と「自己開発センター」の満足度が非常に高くなっていた。そして、「学習支援計画書」の満足度が目立って低かった。



## ■ 学生サポートの満足度(利用者のみ)の学科別比較

- 学生サポート満足度を学科別に比較すると、ほとんどの項目で学科間の差は少なく、特定の学科の満足度が高いといった傾向は見られなかった。
- 唯一、学科間の差が大きかったのは「自己開発センター」であり、「電気電子」の満足度が高く、「グローバル」の満足度が非常に低くなっていた。そして、「オフィスアワー」に関しても、学科間の差はそれほど大きくないものの、「電気電子」の満足度が高く、「グローバル」が低いという傾向が見られた。
- 上記の2項目以外では学科の差はあまりなく、特定の学科が高いといった傾向も見られなかった。

■ 学生サポート評価 学科別比較

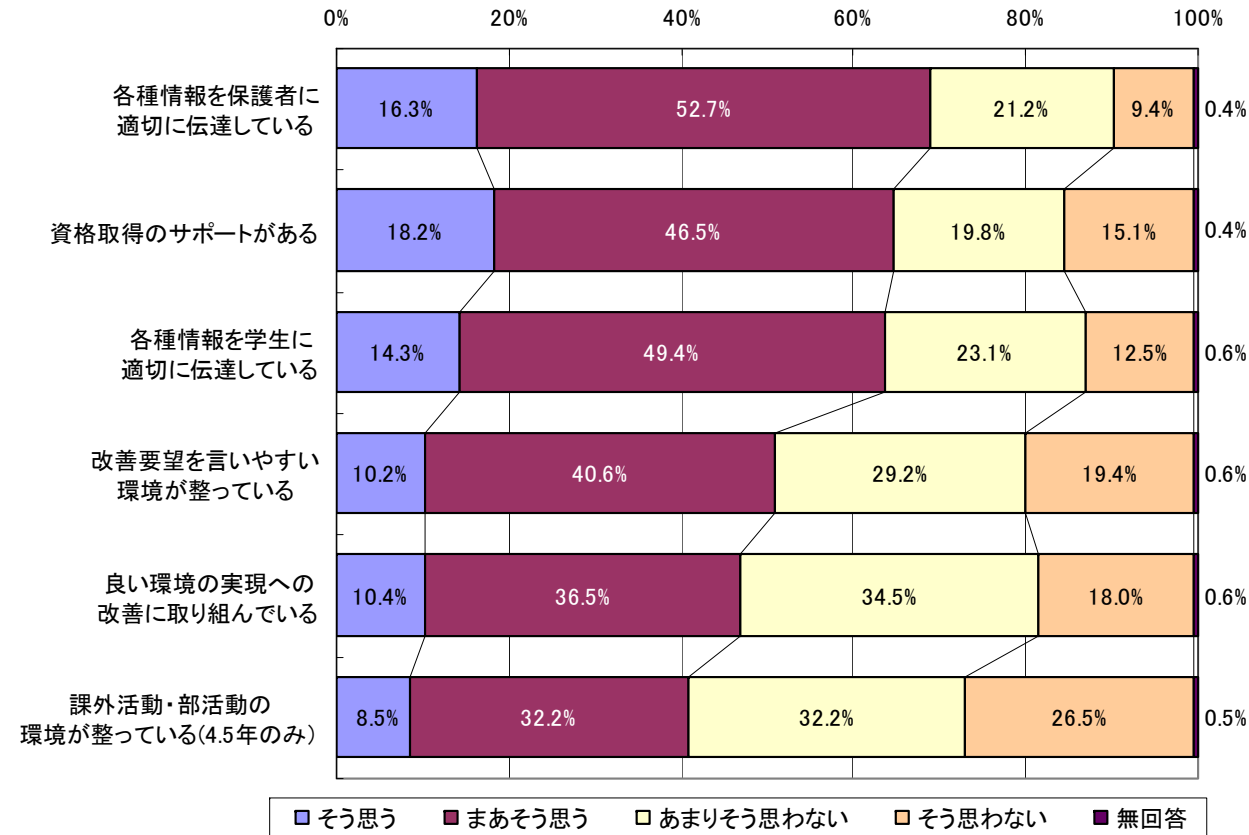


# 学校の取り組み姿勢に関して

## ■学校の取り組み姿勢の評価

- 学校の取り組み姿勢は情報伝達や環境改善への取り組み姿勢などに関する6項目の評価を聞いている。
- 肯定的な意見の合計が最も多かったのは「各種情報を保護者に適切に伝達している」であり、69.0%が肯定的な意見であった。次いで、「資格取得のサポートがある」が64.7%、「各種情報を学生に適切に伝達している」が63.7%となっており、ここまでの3項目は6割以上が肯定的な意見であった。
- 一方、最も評価が低かったのは、4年生と5年生に聞いた「課外活動・部活動の環境が整っている」であり、肯定的な意見は40.7%であった。そして、「良い環境の実現への改善に取り組んでいる」が46.9%、「改善要望を言いやすい環境が整っている」が50.8%となっていた。

## ■学校の取り組み姿勢の評価（在学生のみ）

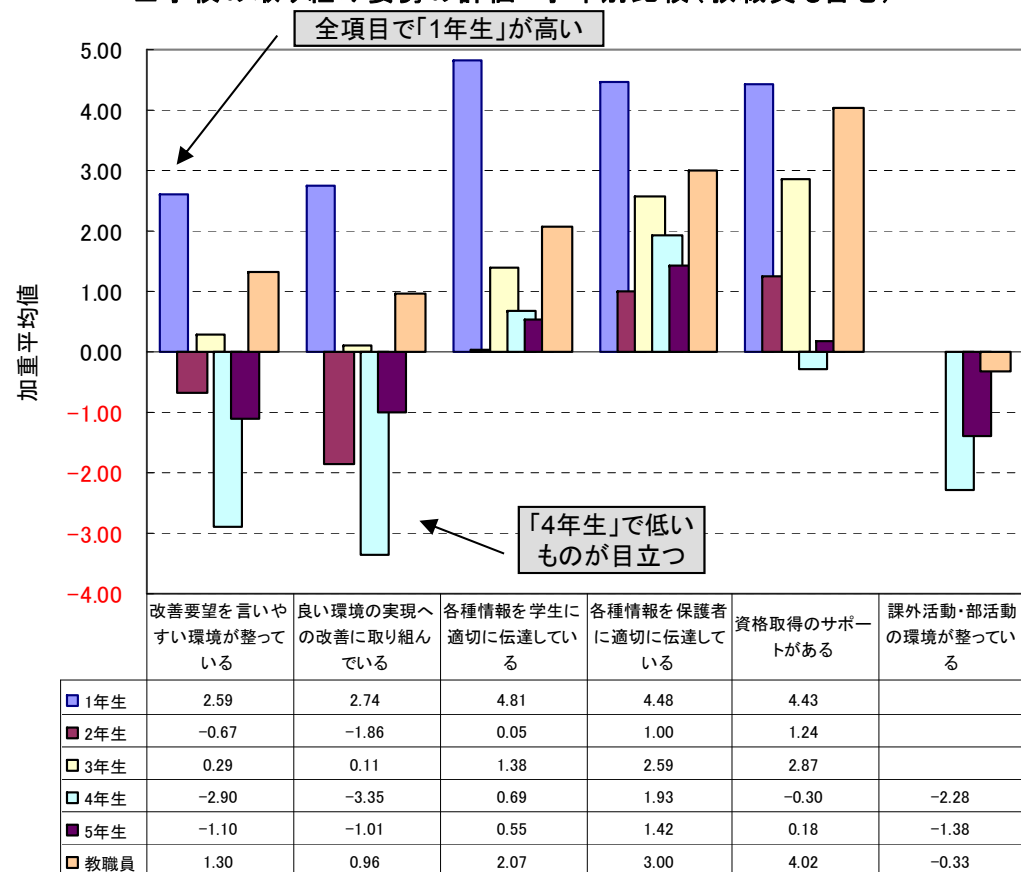




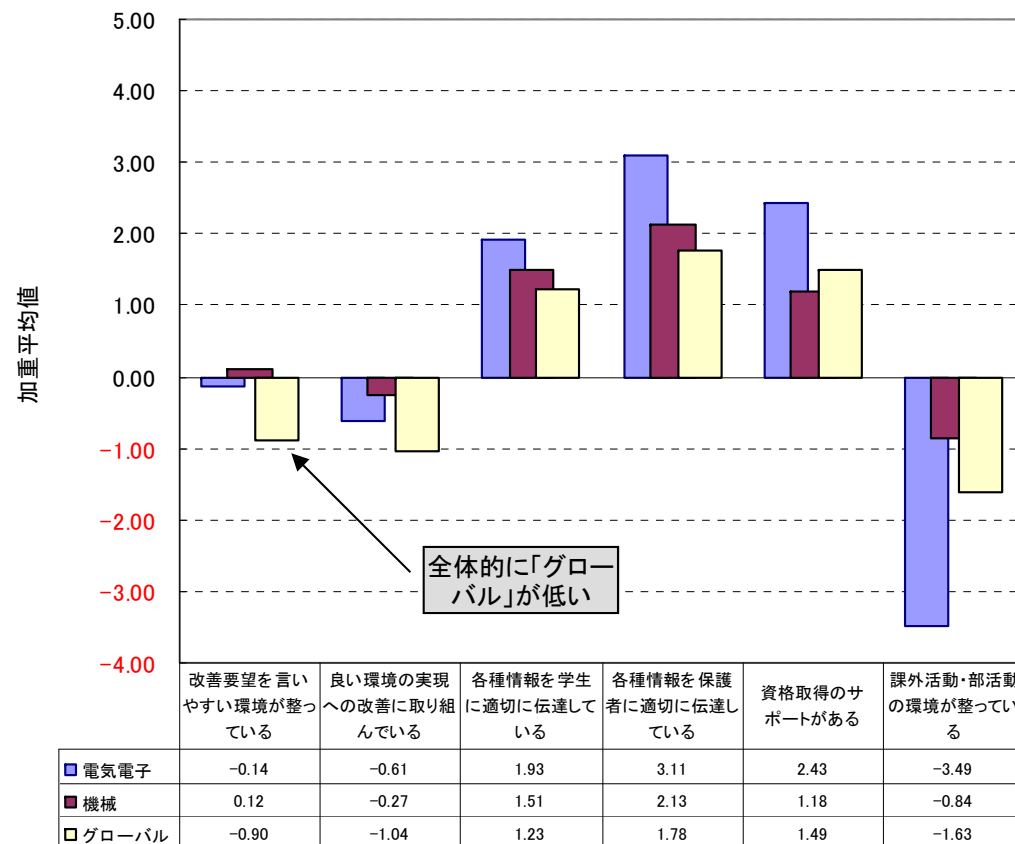
## ■学校の取り組み姿勢の評価の学年別比較

- 学校の取り組み姿勢を学年別に比較すると、全項目で「1年生」の評価が目立って高かった。一方、低いものが目立っていたのは「4年生」であり、特に「改善要望を言いやすい環境が整っている」と「良い環境の実現への改善に取り組んでいる」は大きくマイナスとなっていた。
- この項目は「教職員」にも聞いているが、その評価は全体的に高めであり、すべて「1年生」に次ぐ高さとなっていた、特に「資格取得のサポートがある」の評価は高く、しっかりとサポートしていると自己評価しているようであった。そして、「課外活動・部活動の環境」は「教職員」もマイナス評価となっており、課題を感じているものと思われる。
- 学科別の比較では、「電気電子」で評価の高いものが多く、「グローバル」が低めとなっていた。
- 「電気電子」は「各種情報を学生に適切に伝達している」「各種情報を保護者に適切に伝達している」「資格取得のサポートがある」の評価が高かった。そして、「課外活動・部活動の環境が整っている」の低さが目立っていた。
- 「グローバル」は低めの項目が多く、特に「改善要望を言いやすい環境が整っている」は大きくマイナスとなっていた。

### ■学校の取り組み姿勢の評価 学年別比較(教職員も含む)



### ■学校の取り組み姿勢の評価 学科別比較

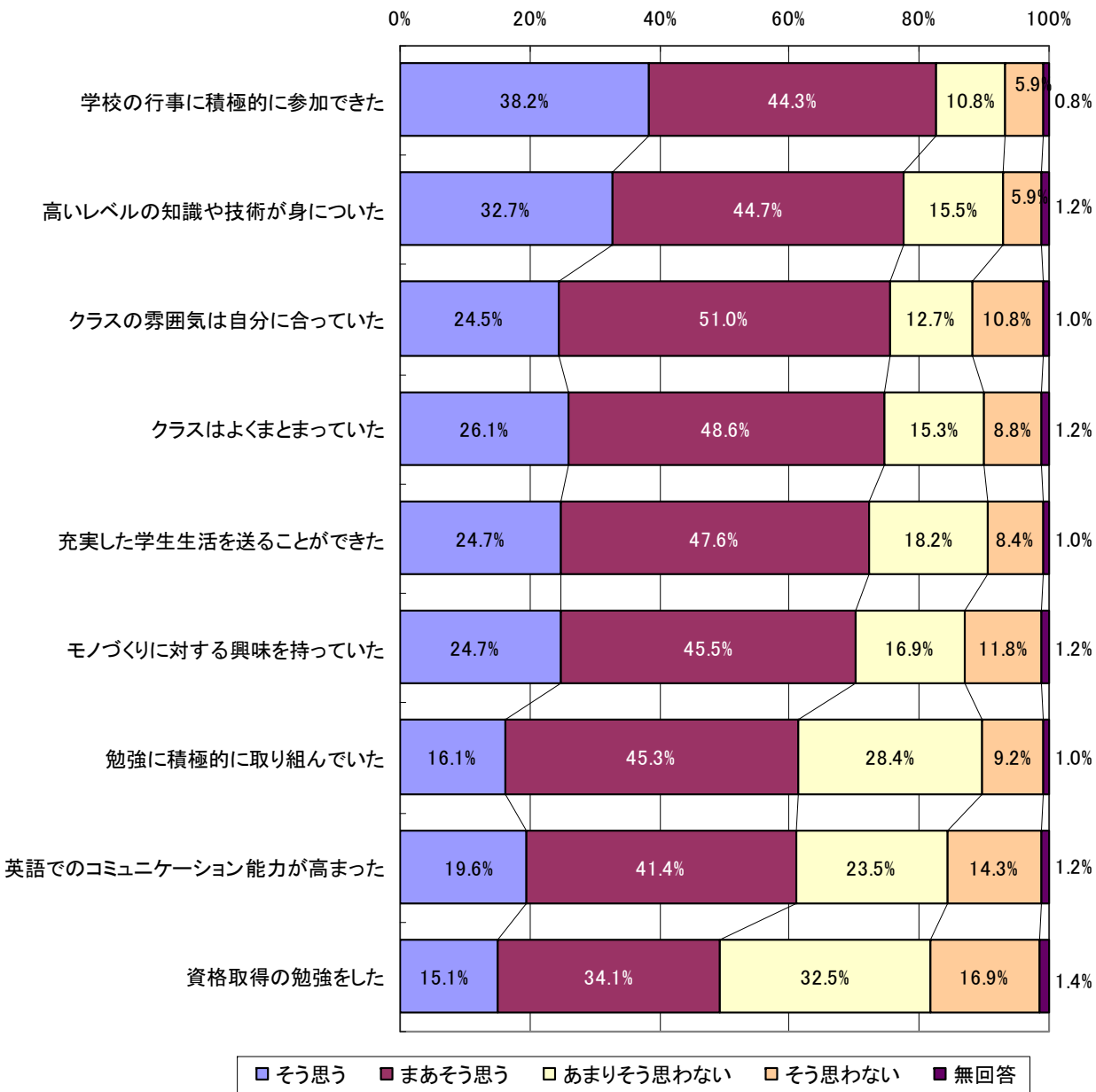


# 学校での過ごし方に関して

## ■学校での過ごし方

- 学校での過ごし方は学校の行事やクラスの状態、勉強への取り組みなどに関して聞いているが、肯定的な意見が最も多かったのは「学校の行事に積極的に参加できた」の82.5%であった。
- 上記に次いで、「高いレベルの知識や技術が身についた」が77.4%、「クラスの雰囲気は自分に合っていた」が75.5%、「クラスはよくまとまっていた」が74.7%で続いており、クラスの状態も良さそうであった。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「資格取得の勉強をした」の49.2%であり、唯一、5割に満たなかった。そして、「英語でのコミュニケーション能力が高まった」が61.0%、「勉強に積極的に取り組んでいた」が61.4%であり、勉強に対してはやや積極性に欠ける面も見られた。

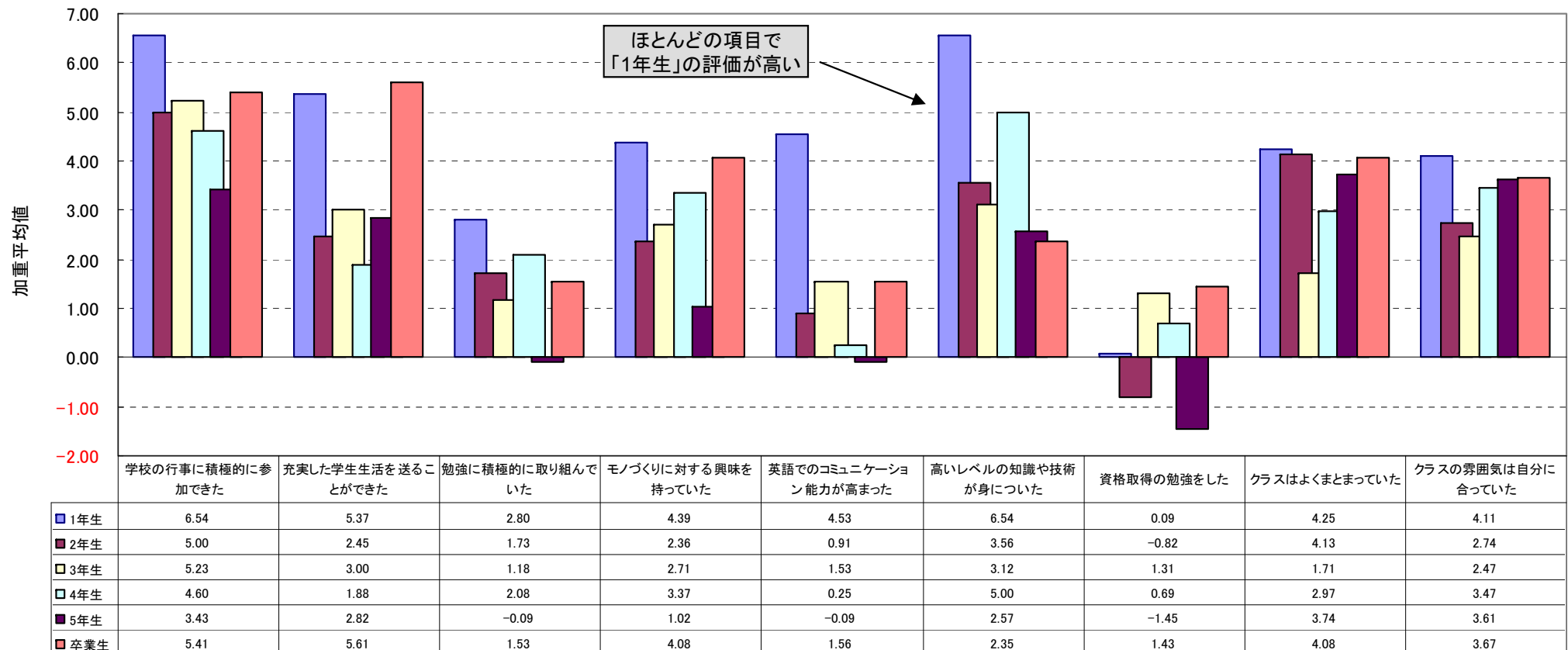
■学校での過ごし方(在学生のみ)



## ■学校での過ごし方の学年別比較

- 学校での過ごし方を学年別に比較したところ、ほとんどの項目で「1年生」が最も高く、その他の学年の評価は様々であった。
- 「1年生」は「資格取得の勉強をした」は低かったが、これは意識の問題ではなく、時期的なものであると思われる。それ以外の項目の評価は最も高く、特に「英語でのコミュニケーション能力が高まった」と「高いレベルの知識や技術が身についた」の高さが目立っており、カリキュラムに満足している様子が見えてきた。また、「充実した学生生活を送ることができた」も高く、非常によい状態であると思われる。
- 項目別には「資格取得の勉強をした」で「2年生」と「5年生」が大きくマイナスとなっている点が目立っていた。これは時期によるものかどうかは不明であるが、気になる点と言える。また、「5年生」は「勉強に積極的に取り組んでいた」と「英語でのコミュニケーション能力が高まった」がわずかにマイナスとなっていた。
- 今回は「卒業生」にも同じ項目を聞いているが、「充実した学生生活を送ることができた」と「資格取得の勉強をした」が高く、在校生を上回っていた。また、「学校の行事に積極的に参加できた」「モノづくりに対する興味を持っていた」も高く、充実していた様子が見えてきた。

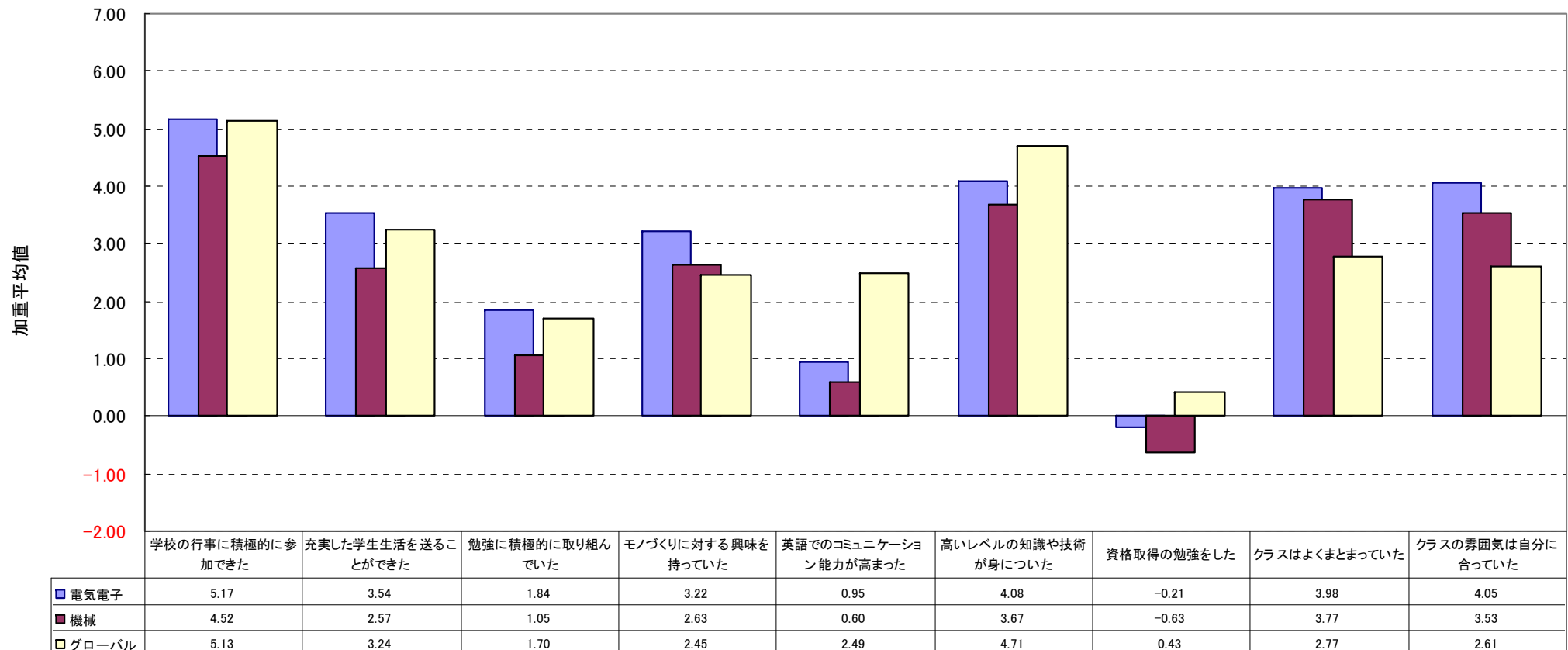
■学校での過ごし方 学年別比較



## ■学校での過ごし方の学科別比較

- 学校での過ごし方を学科別に比較したところ、特定の学科が高かったり、低かったりという特徴は見られなかった。
- 「電気電子」は特に高いものは見られなかったが、「モノづくりに対する興味を持っていた」「クラスはよくまとまっていた」「クラスの雰囲気は自分に合っていた」が高く、クラスは良い状態のようであった。
- 「機械」は特に高いものは見られず、やや低いものが目立っていた。特に「充実した学生生活を送ることができた」「勉強に積極的に取り組んでいた」「英語でのコミュニケーション能力が高まった」「高いレベルの知識や技術が身についた」が低く、「資格取得の勉強をした」のマイナススコアが目についた。
- 「グローバル」は「英語でのコミュニケーション能力が高まった」と「高いレベルの知識や技術が身についた」は最も高かった。また、「資格取得の勉強をした」も高くはないものの、唯一のプラススコアであった。一方、「クラスはよくまとまっていた」「クラスの雰囲気は自分に合っていた」の2項目は最も低く、やや気になる点と言える。

■学校での過ごし方 学科別比較

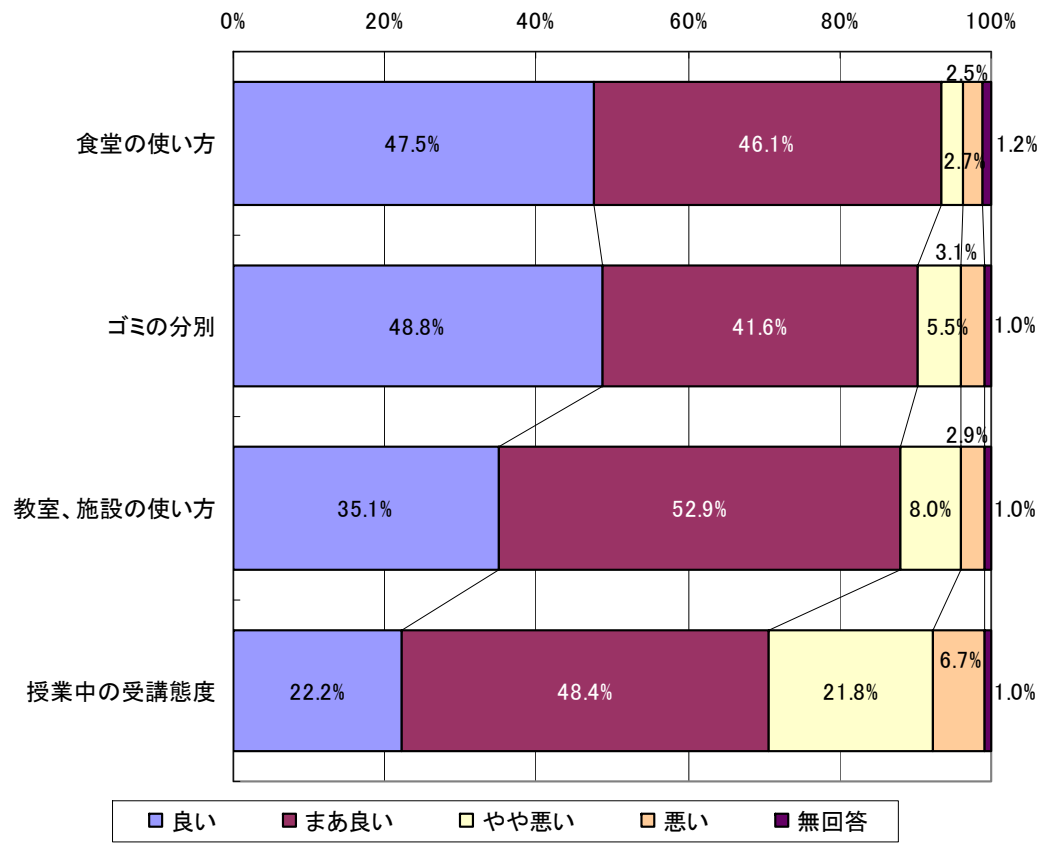


# 学内での自分自身のマナーに関して

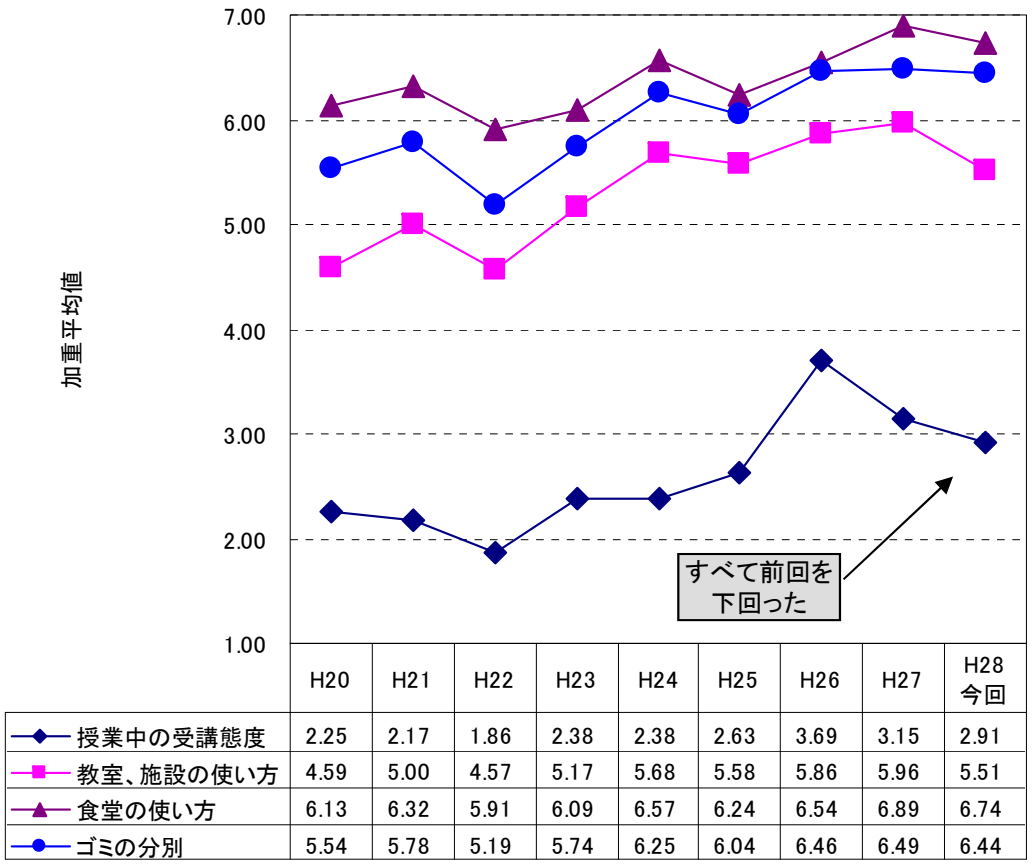
## ■学内での自分自身のマナー

- 学内でのマナーの質問は、「学生自身が自分のマナーをどう思うか?」と聞いている。
- 自己評価が最も高かったのは「食堂の使い方」の93.6%であり、ほとんどの学生が問題ないと考えているようであった。次いで、「ゴミの分別」が90.4%、「教室、施設の使い方」が88.0%と続いていた。そして、「授業中の受講態度」では70.6%が肯定的な意見であり、問題があると感じているという意見は28.5%であった。
- 年度別の比較を見ると、すべての項目で前回を下回っていた。特に「授業中の受講態度」と「教室、施設の使い方」の低下が大きかった。

■学内での自分自身のマナー(在学生のみ)



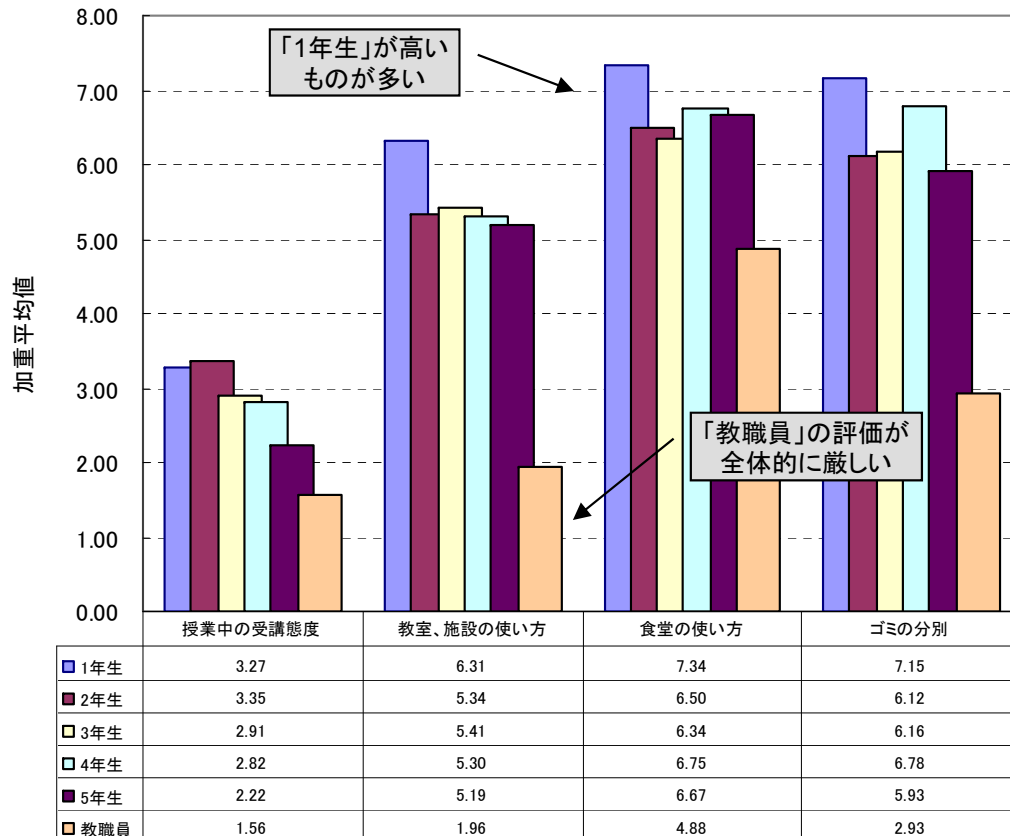
■学内での自分自身のマナー 年度別比較



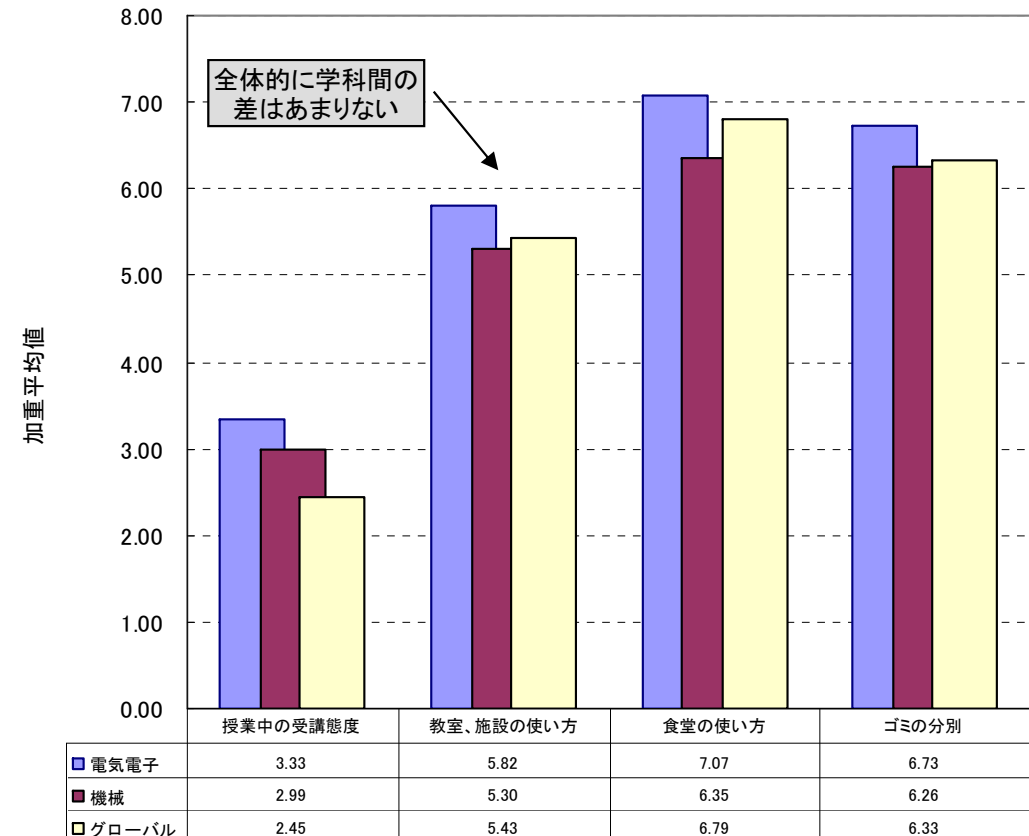
## ■学内での自分自身のマナーの学年別比較 学科別比較

- 自分自身のマナーを学年別に見たところ、「1年生」の自己評価が高いものが多く見られた。例外は「授業中の受講態度」であり、「2年生」が最も高く、「1年生」はわずかに下回っていた。他には「ゴミの分別」で「4年生」が高く、「授業中の受講態度」で「5年生」が低い点が目立っていた。
- 「教職員」には「学生のマナーをどう思うか」と聞いているが、すべての項目で学生より目立って低くなっており、厳しい評価となっていた。
- 学科別に見たところ、全体的にあまり大きな差は見られなかったが、全項目で「電気電子」の自己評価が最も高かった。そして、「授業中の受講態度」では「グローバル」の自己評価が低めであり、「教室、施設の使い方」「食堂の使い方」「ゴミの分別」では「機械」が最も低かった。

### ■学内での自分自身のマナー 学年別比較(教職員も含む)



### ■学内での自分自身のマナー 学科別比較

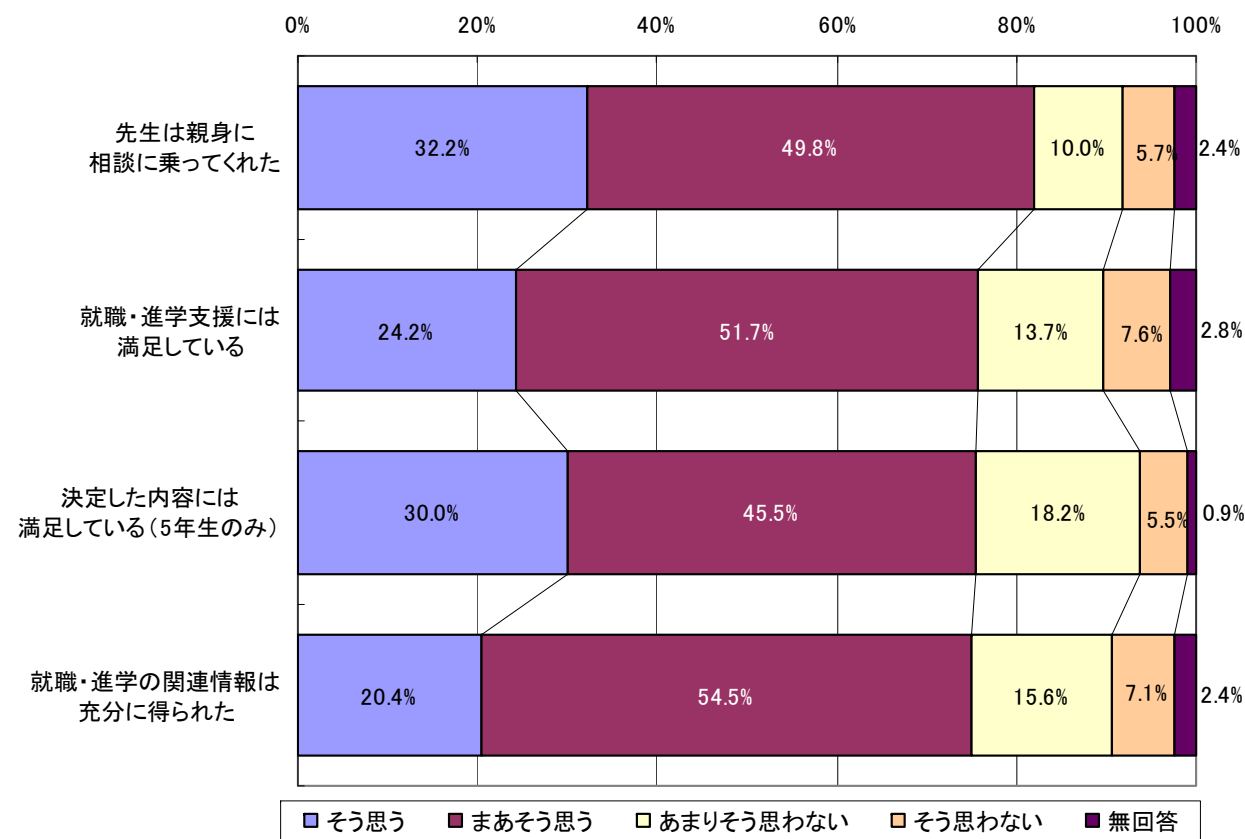


# 就職・進学支援に関して

## ■就職・進学支援に関して

- 「就職・進学支援」の評価は「4年生」と「5年生」に聞いた質問となる。
- 肯定的な意見が最も多かったのは「先生は親身に相談に乗ってくれた」の82.0%であった。
- 上記に次いで、「就職・進学支援には満足している」が75.9%、「決定した内容には満足している」が75.5%、「就職・進学の関連情報は十分に得られた」が74.9%と続いており、いずれも7割以上が満足しているという回答であり、全体的に満足度は高いと言える。

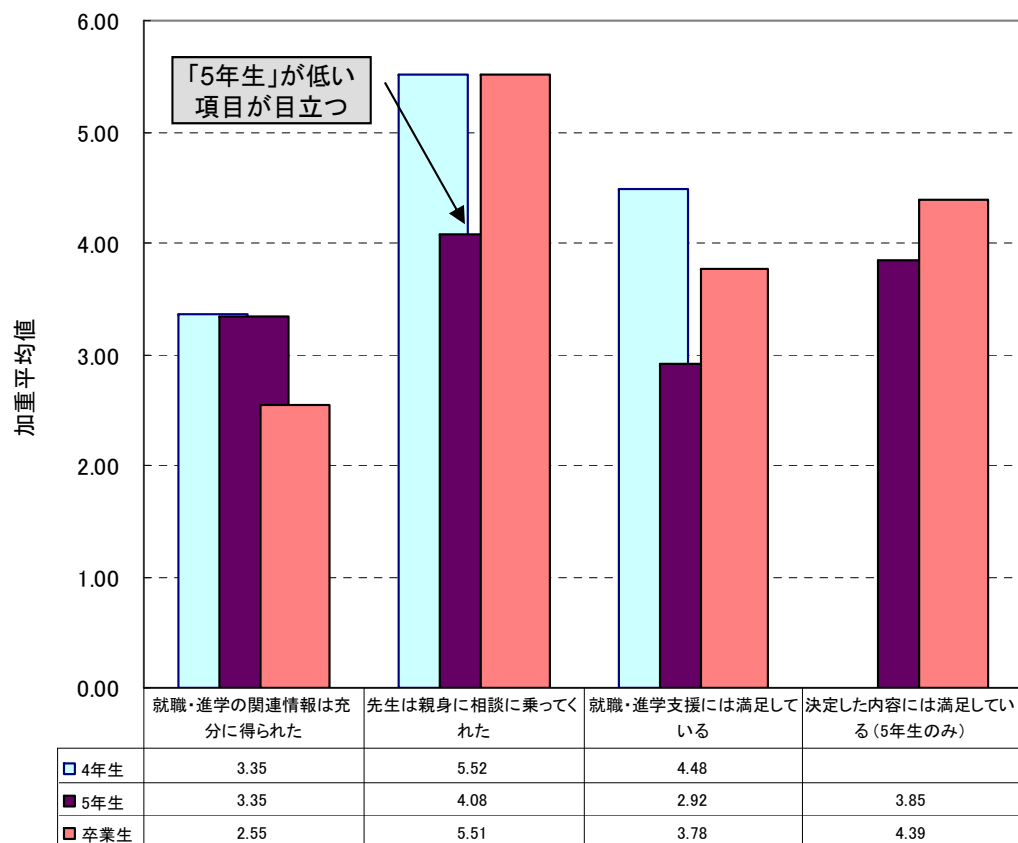
## ■就職・進学支援の評価(4年生、5年生のみ)



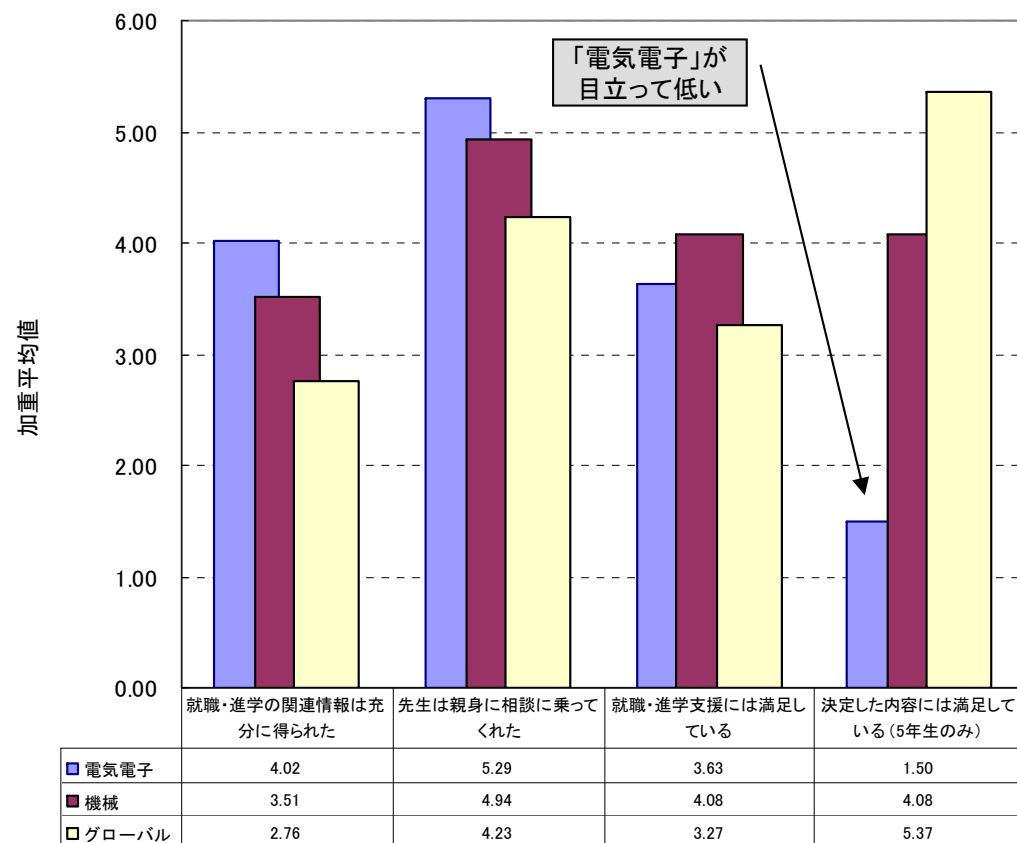
## ■就職・進学支援の評価の学年別比較 学科別比較

- 「就職・進学支援」の学年別比較を見ると、在学生では「就職・進学の関連情報は十分に得られた」は差はなかったが、「先生は親身に相談に乗ってくれた」「就職・進学支援には満足している」は「5年生」の低さが目立っていた。
- 今回は「卒業生」にも聞いているが、「就職・進学の関連情報は十分に得られた」「就職・進学支援には満足している」はやや低かったものの、「決定した内容には満足している」は「5年生」を上回っており、結果の満足度は高いと言える。
- 学科別の比較では「就職・進学の関連情報は十分に得られた」「先生は親身に相談に乗ってくれた」「就職・進学支援には満足している」の3項目はいずれも「グローバル」が最も低かったものの、「決定した内容には満足している」は最も高くなるという特徴が見られた。一方、「電気電子」は「関連情報」や「先生の相談」には満足しているものの、「決定した内容」に対する満足度は非常に低く、気になる結果となっていた。

### ■就職・進学支援の評価 学年別比較



### ■就職・進学支援の評価 学科別比較



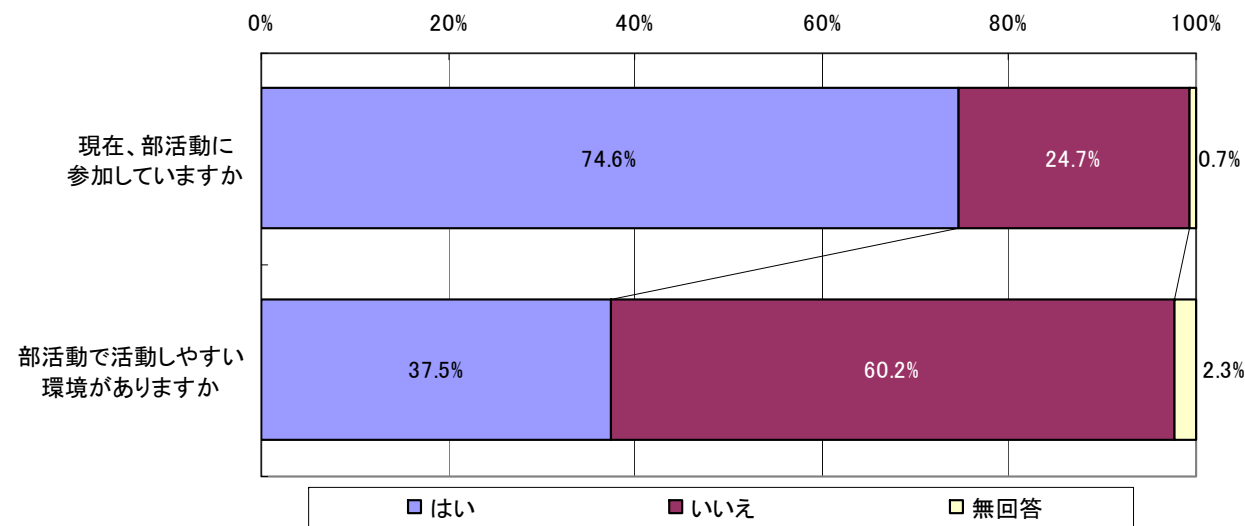


# 部活動に関して

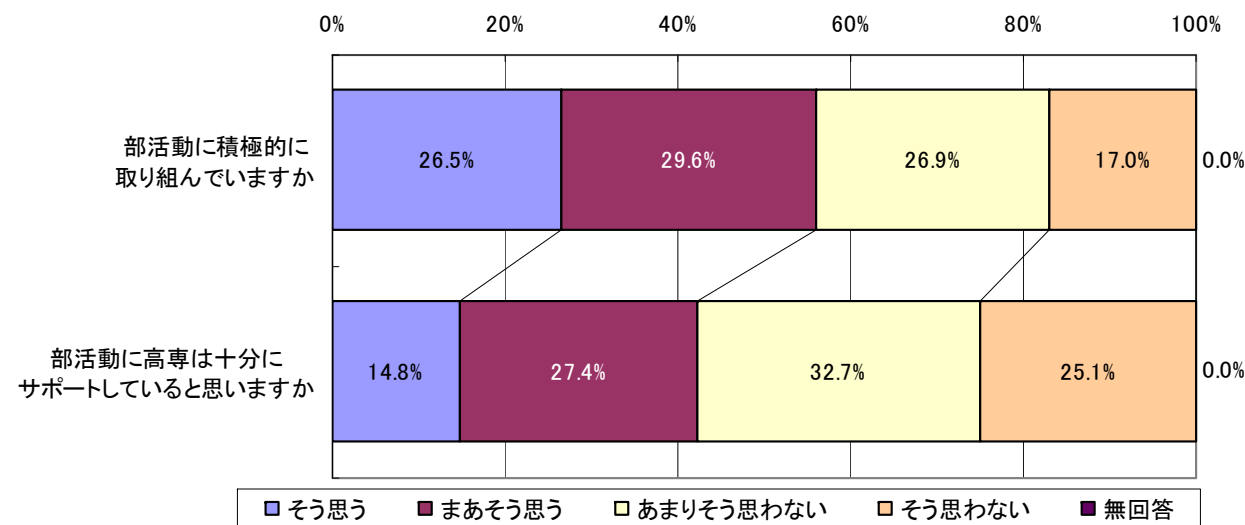
## ■部活動の現状に関して

- 「部活動の現状に関して」は1～3年生のみに聞いており、「現状評価」は部活動の参加者だけを集計対象としている。
- 「現在、部活動に参加していますか」に対しては、74.6%が「はい」と答え、「部活動で活動しやすい環境がありますか」では37.5%が「はい」と答えていた。
- 部活動の参加者に対して「部活動に積極的に取り組んでいますか」と聞いたところ、「そう思う」が26.5%、「まあそう思う」が29.6%であり、合わせると56.1%が肯定的な意見であり、6割が部活動に積極的に取り組んでいるとのことであった。
- 「部活動に高専は十分にサポートしていると思いますか」では、「そう思う」が14.8%、「まあそう思う」が27.4%であり、合わせると42.2%が肯定的な意見となっていた。

### ■部活動の現状に関して(1～3年生のみ)



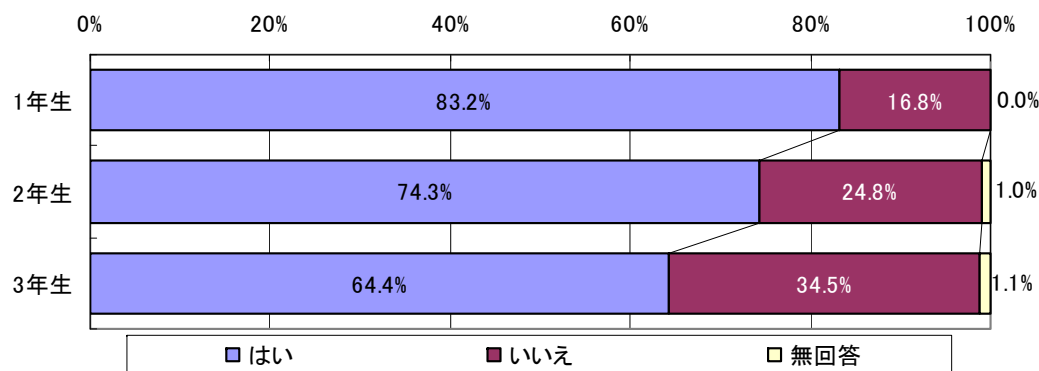
### ■部活動参加者の現状評価(1～3年生、部活動参加者のみ)



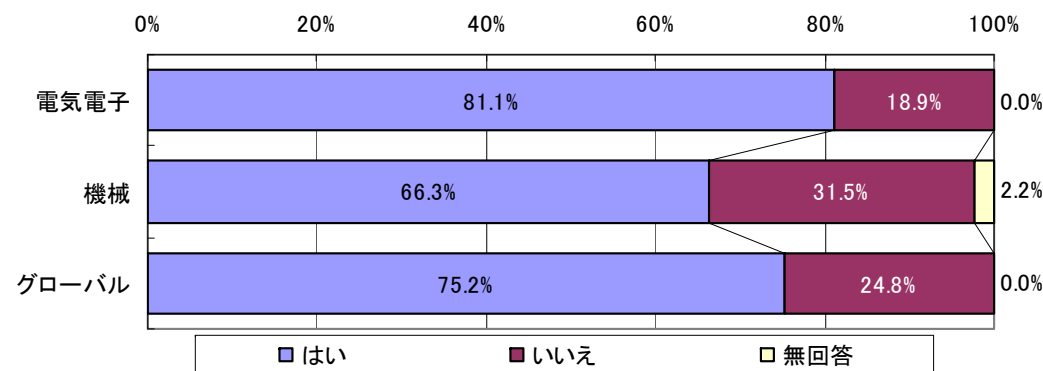
## ■部活動の現状の学年別比較 学科別比較

- 学年別に「部活動の参加状況」を比較すると、高学年ほど参加率が低下する傾向が見られ、「1年生」の83.2%に対して「3年生」は64.4%となり、18.8ポイントの差がついていた。また、「部活動で活動しやすい環境がありますか」は「2年生」の評価が非常に低い点が特徴的であり、最も高いのは「1年生」であり、半数は肯定的な意見であった。
- 学科別に「部活動の参加状況」を比較すると、「電気電子」が81.1%で最も高く、「グローバル」が75.2%、「機械」が66.3%となっており、「電気電子」と「機械」の差は14.8ポイントであった。「部活動の環境」に関しては学科間の差は少なく、肯定的な意見は「グローバル」が39.4%で最も多く、「電気電子」が36.8%、「機械」が34.8%と続いていた。

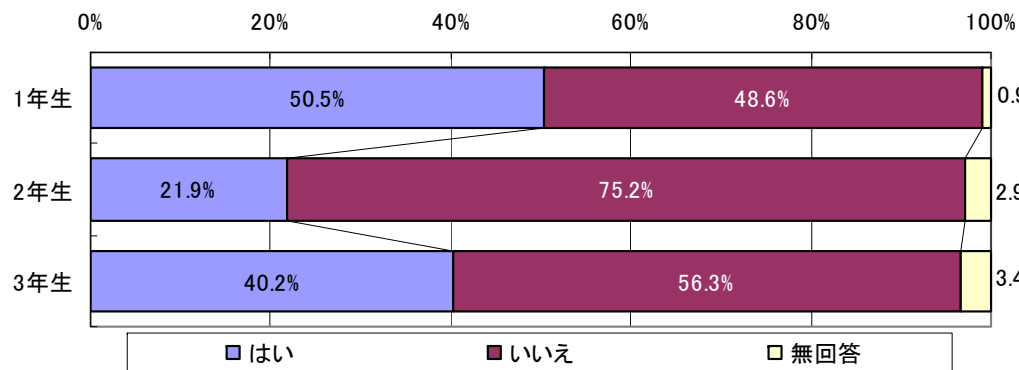
### ■現在、部活動に参加していますか 学年別比較



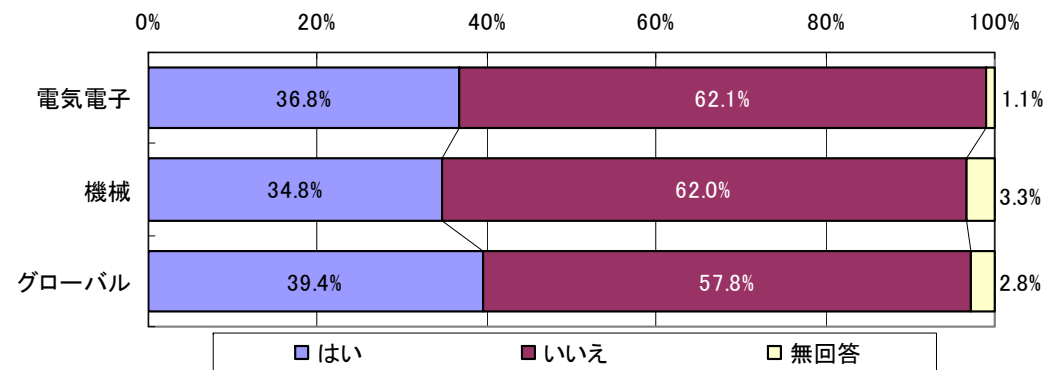
### ■現在、部活動に参加していますか 学科別比較



### ■部活動で活動しやすい環境がありますか 学年別比較



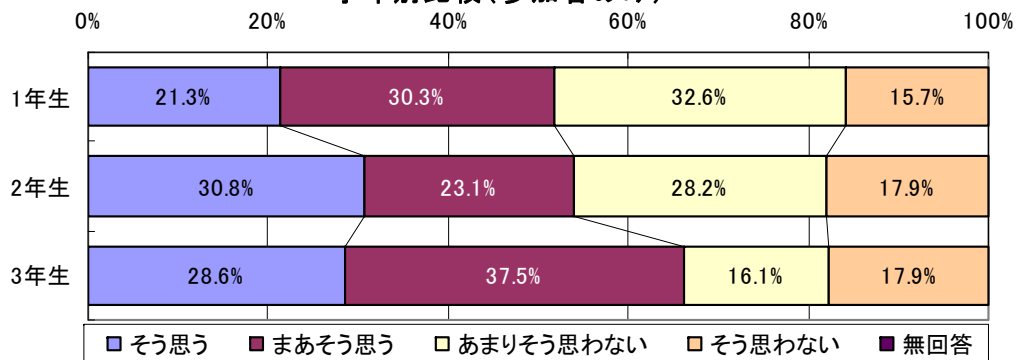
### ■部活動で活動しやすい環境がありますか 学科別比較



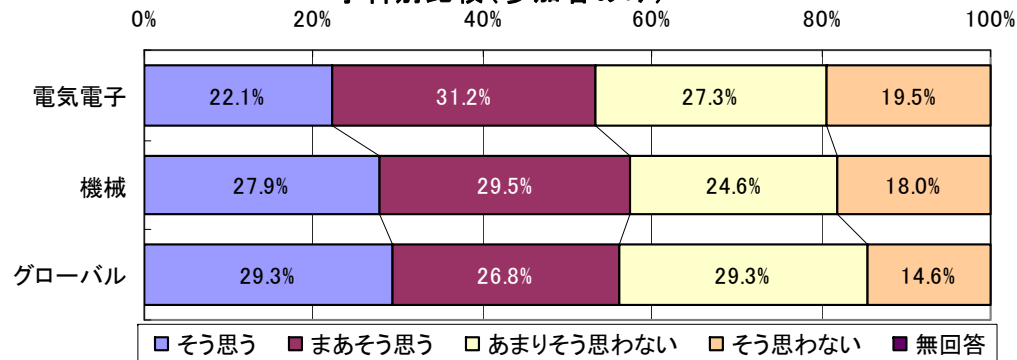
## ■部活動参加者の現状評価の学年別比較 学科別比較

- 「部活動への積極性」を学年別に比較すると、「1年生」では肯定的な意見が51.6%であり、「2年生」が53.9%、「3年生」が66.1%と、高学年ほど積極的になっている様子がうかがえた。
- 「高専のサポート」では「1年生」で肯定的な意見の合計が50.5%、「2年生」が33.3%、「3年生」が41.1%であり、「2年生」が「高専のサポート」に不満を持っているようであり、「そう思わない」は39.7%を占めていた。
- 学科別に「部活動への積極性」を比較すると学科間の差は少なく、肯定的な意見は「機械」が57.4%と最も多く、「グローバル」が56.1%、「電気電子」が53.3%であった。ただし、「そう思う」だけを見ると「電気電子」が22.1%と、やや少なめであった。
- 「高専のサポート」では「グローバル」で肯定的な意見が47.6%と最も多く、「機械」が39.4%、「電気電子」が37.7%と続いていた。「グローバル」と「電気電子」の差は9.9ポイントであり、「グローバル」の満足度がやや高かった。

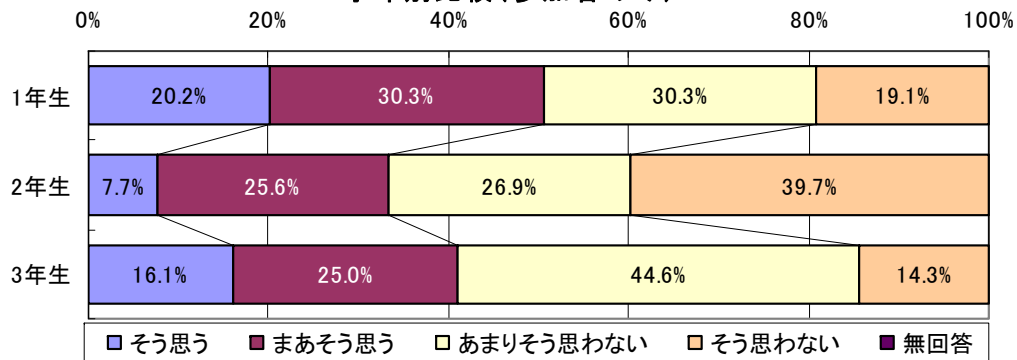
■部活動に積極的に取り組んでいますか  
学年別比較(参加者のみ)



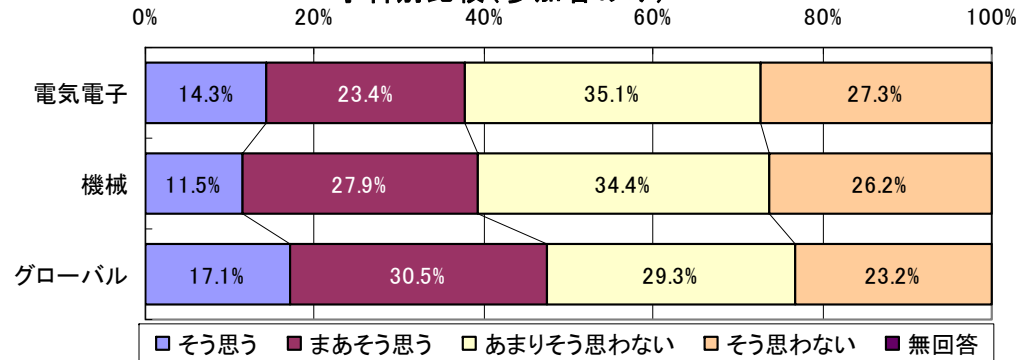
■部活動に積極的に取り組んでいますか  
学科別比較(参加者のみ)



■部活動に高専は十分にサポートしていると思いますか  
学年別比較(参加者のみ)



■部活動に高専は十分にサポートしていると思いますか  
学科別比較(参加者のみ)

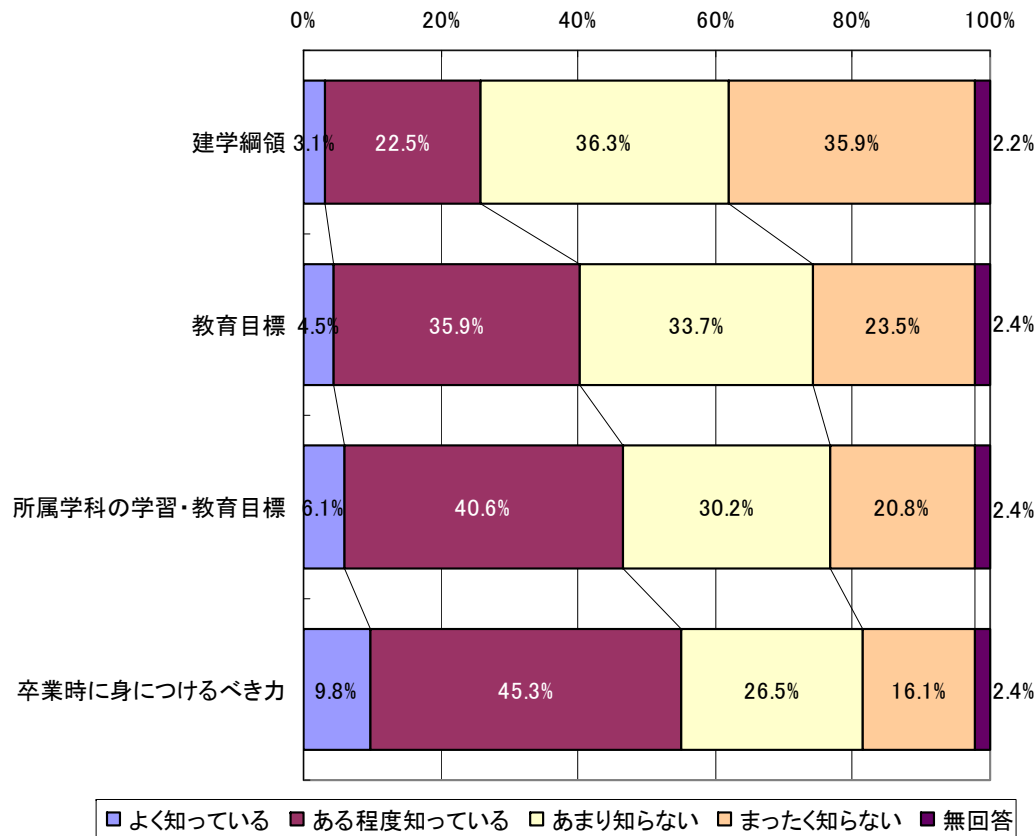


# KTCの目的・目標に関して

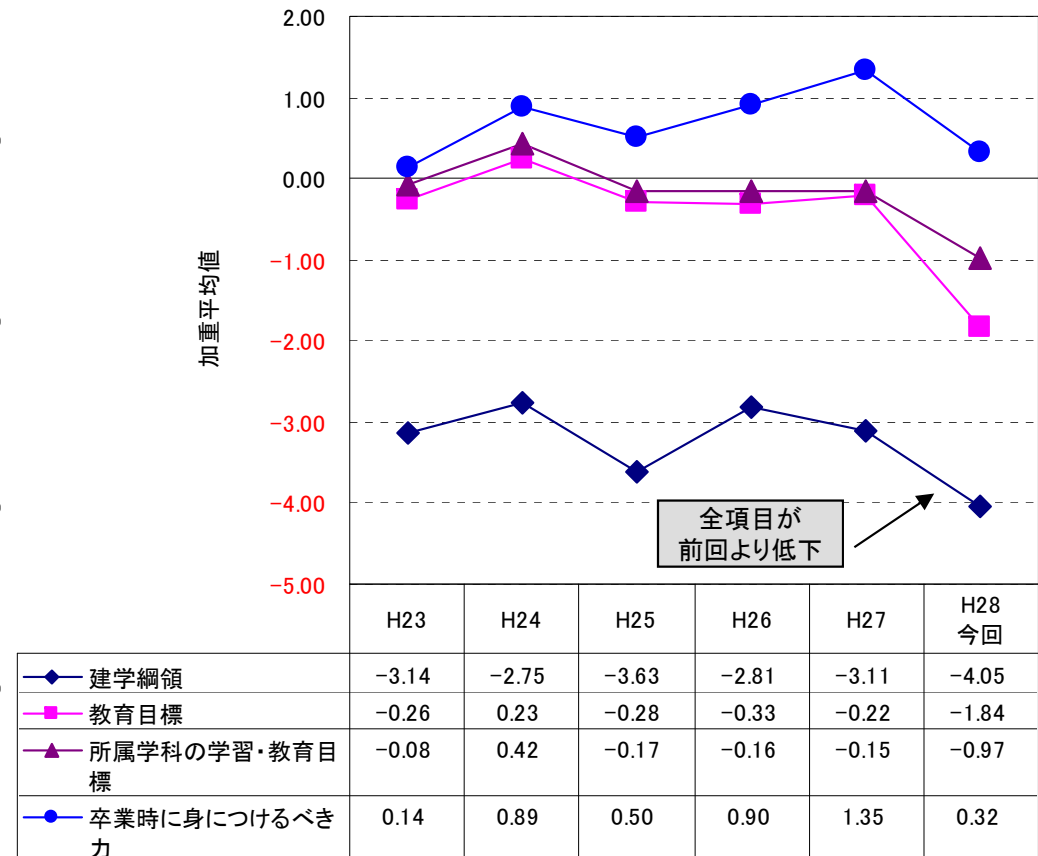
## ■KTCの目的・目標に対する意識

- KTCの目的・目標に関する意識では、「建学綱領」を「よく知っている」が3.1%、「ある程度知っている」が22.5%であり、合計すると25.6%は知っているという回答であった。
- 上記以外の認知度では、「教育目標」は40.4%、「所属学科の学習・教育目標」は46.7%、「卒業時に身につけるべき力」は55.1%が知っているという回答であった。
- 年度別比較では、すべての項目で前回を下回っており、「建学綱領」「教育目標」「所属学科の学習・教育目標」の3項目の認知度は過去最低となった。そして、「卒業時に身につけるべき力」は過去2番目の低さであった。

## ■KTCの目的・目標に対する意識(在学生のみ)



## ■KTCの目的・目標に対する意識 年度別比較

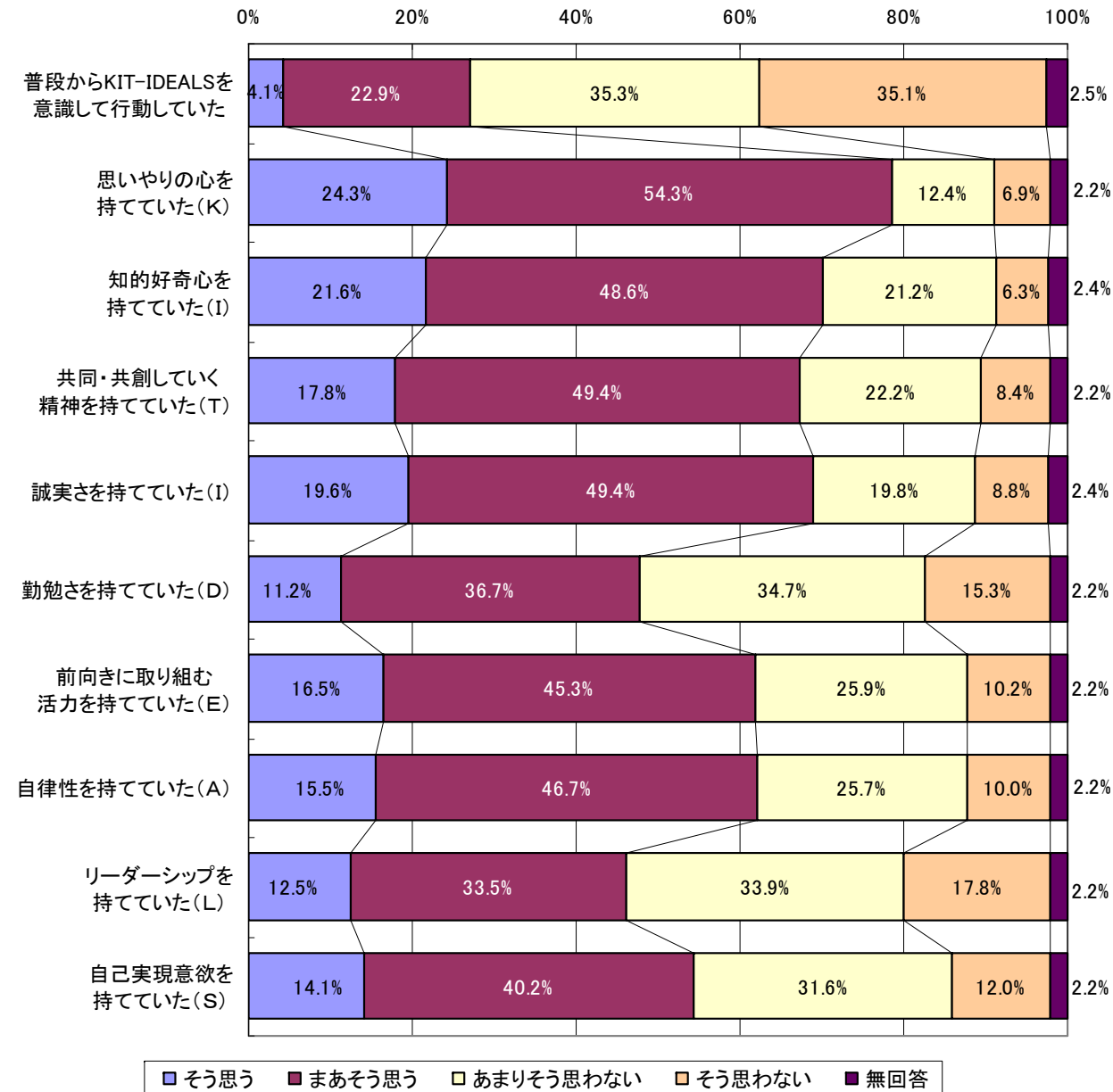


# KIT-IDEALSに関して

## ■KIT-IDEALSに関して

- 「普段からKIT-IDEALSを意識して行動していた」に関しては、「そう思う」が4.1%、「まあそう思う」が22.9%であり、合わせると27.0%が肯定的な意見となっていた。
- KIT-IDEALSの9項目で肯定的な意見が最も多かったのは「思いやりの心を持っていた(K)」の78.6%であった。
- 上記に次いで、「知的な好奇心を持っていた(I)」が70.2%、「誠実さを持っていた(I)」が69.0%、「共同・共創していく精神を持っていた(T)」が67.2%で続いていた。
- 肯定的な意見が最も少なかったのは「リーダーシップを持っていた(L)」の46.0%であり、「勤勉さを持っていた(D)」が47.9%となっていた。

## ■KIT-IDEALSに関して(在学生のみ)

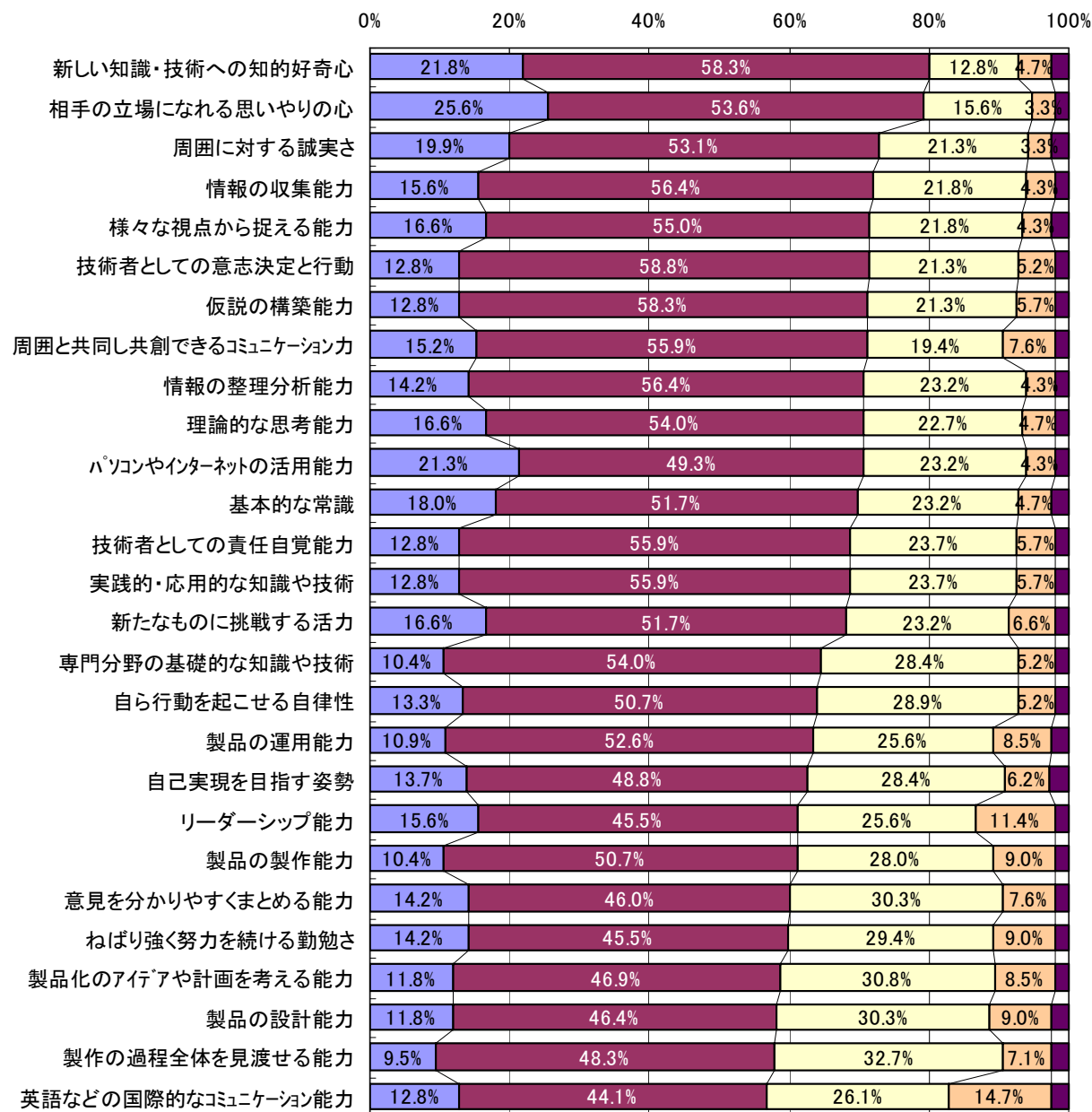


# 学生の能力に関して

## ■自分自身の能力の評価

- 「学生が考える現段階の自分自身の能力」は「4年生」と「5年生」のみに聞いている。
- 肯定的な意見が最も多かったのは「新しい知識・技術への知的好奇心」であり、80.1%は自分自身が備えていると自己評価していた。
- 上記に次いで「相手の立場になれる思いやりの心」が79.2%、「周囲に対する誠実さ」が73.0%、「情報の収集能力」が72.0%、「様々な視点から捉える能力」が71.6%と続いていた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「英語などの国際的なコミュニケーション能力」の56.9%であり、「製作の過程全体を見渡せる能力」(57.8%)、「製品の設計能力」(58.2%)などが、自信のない点と言える。

## ■学生が考える現段階の自分自身の能力(4年生、5年生のみ)

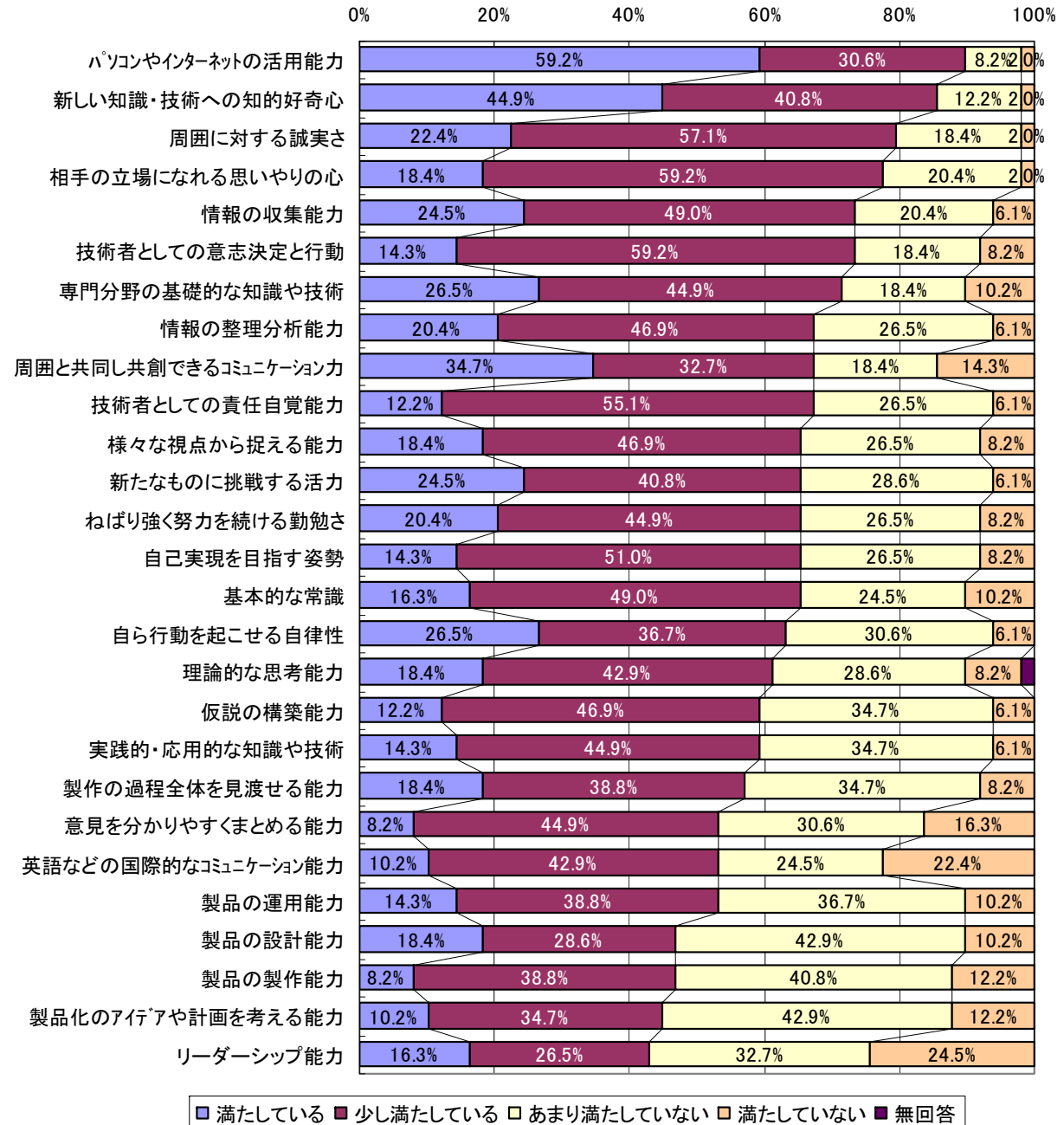


■ 満足している ■ 少し満足している □ あまり満足していない □ 満足していない ■ 無回答

## ■卒業生の卒業時点の自己評価

- 今回は「卒業生」にも「卒業時点の自分自身の能力」として自己評価を聞いている。
- 最も肯定的な意見が多かったのは「パソコンやインターネットの活用能力」であり、89.8%が満たしているという意見であった。そして、「新しい知識・技術への知的好奇心」が85.7%が続いており、これに関しても「満たしている」が44.9%と多さが目立っていた。
- 上記に次いで、「周囲に対する誠実さ」が79.5%、「相手の立場になれる思いやりの心」が77.6%、「情報の収集能力」が73.5%と続いていた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「リーダーシップ能力」の42.8%であり、「製品化のアイデアや計画を考える能力」(44.9%)、「製品の製作能力」(47.0%)、「製品の設計能力」(47.0%)、「製品の運用能力」(53.1%)となっており、実践に近い製品に関する能力に自信を持てていなかったと言える。

## ■卒業生が考える卒業時点の自分自身の能力

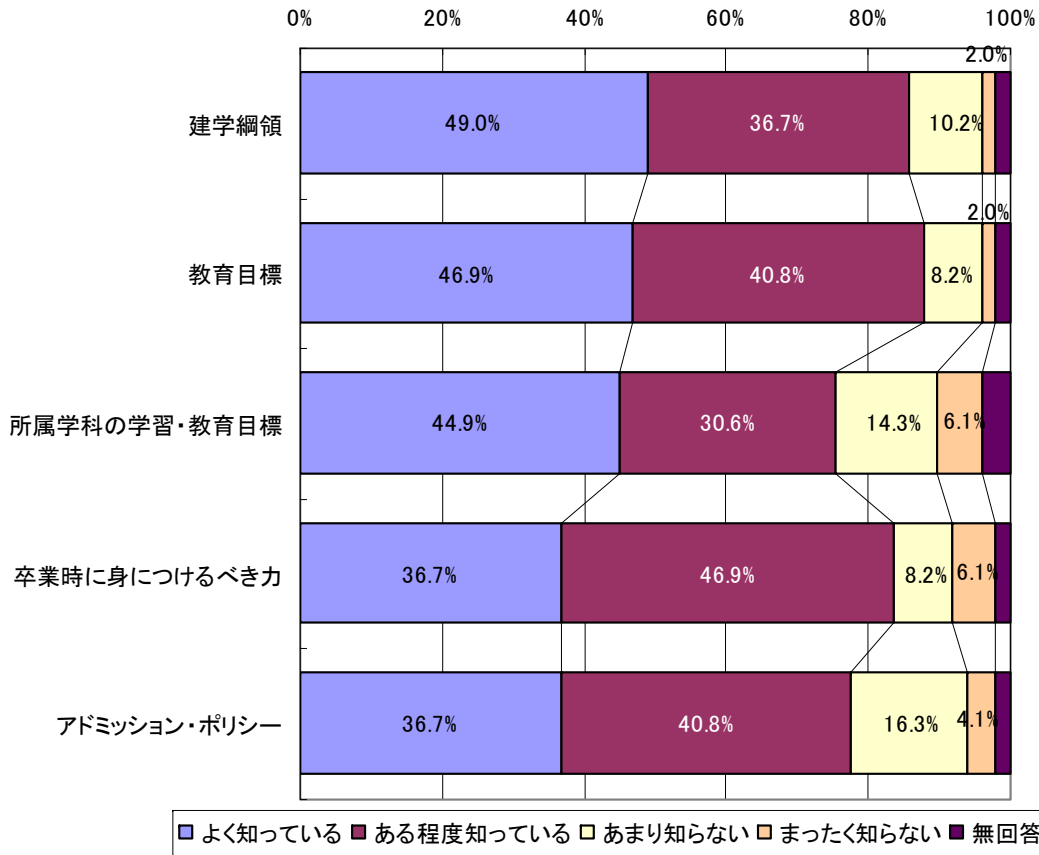


# 教職員の意識に関して

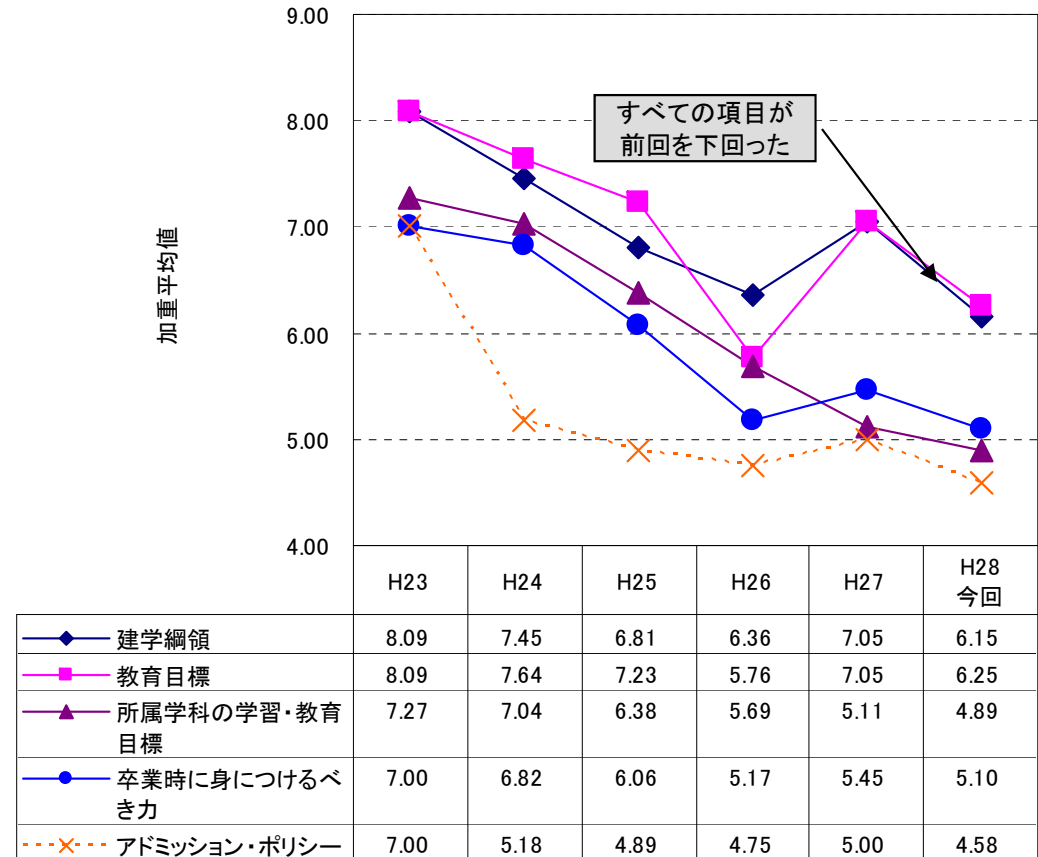
## ■教職員の「建学綱領」「教育目標」などに関する意識

- 各種項目の認知度を見たところ、まず、「建学綱領」の認知度は85.7%であった。そして、「教育目標」は87.7%であり、いずれも1割程度は「知らない」という回答になっていた。
- 上記以外では、「卒業時に身につけるべき力」が83.6%、「アドミッション・ポリシー」が77.5%、「所属学科の学習・教育目標」が75.5%となっていた。
- 年度別比較では、すべての項目が前年を下回っており、「教育目標」以外はすべてこれまでで最低となっていた。

■「建学綱領」「教育目標」などに関する意識(教職員)



■「建学綱領」「教育目標」などに関する意識 年度別比較

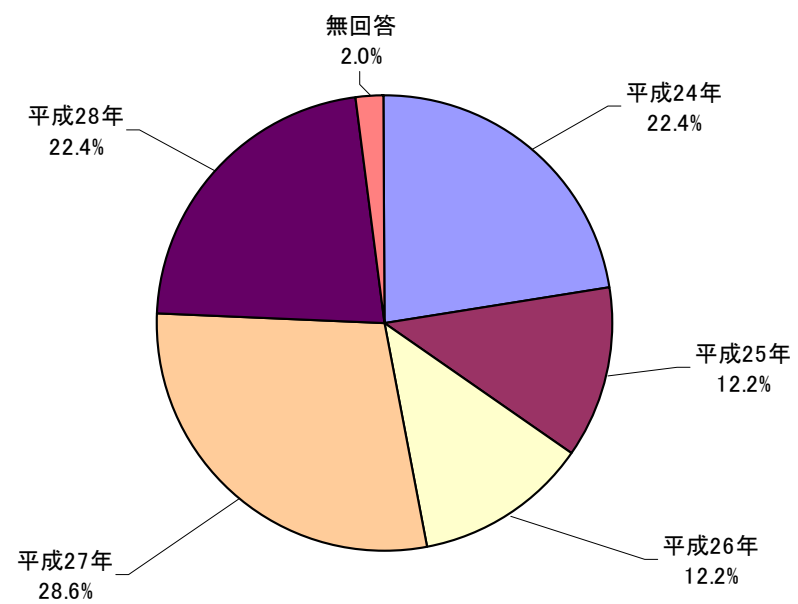




# 回答した卒業生の基本属性

## ■回答した卒業生の基本属性

### ■回答した卒業生の卒業年度



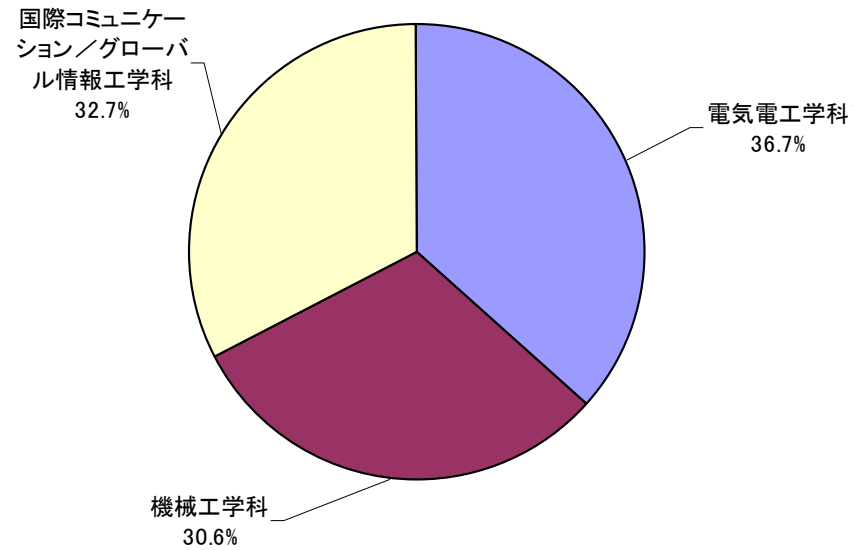
### ■卒業生の現在の職種

職種	割合
研究開発	4.1%
設計技術	10.2%
製造・生産技術	18.4%
品質管理	2.0%
建設施工管理	6.1%
コンピュータ開発(ハード・ソフト)	2.0%
コンピュータサービス(SE等)	4.1%
保安関係(電気設備・消防・警備保障)	8.2%
営業職	2.0%
事務職	2.0%
その他	12.2%
学生	28.6%
総計	100.0%

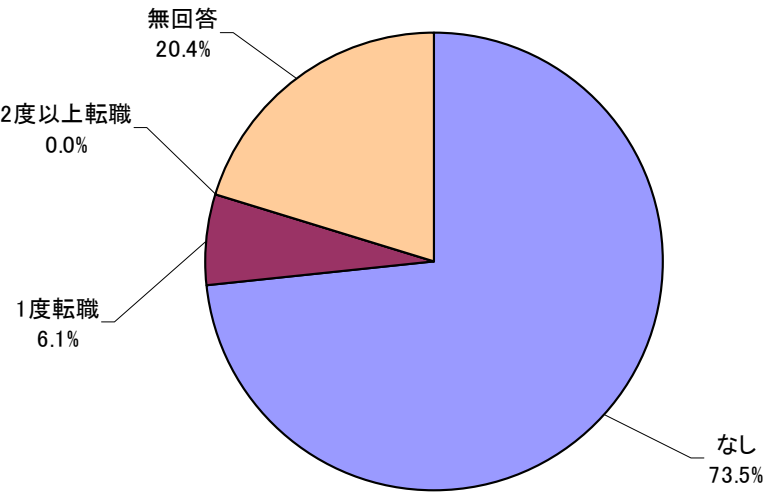
### ■卒業生の会社の業種

会社の業種	割合
建設業(総合・設備工事)	8.2%
製造業(鉄鋼、非鉄金属、金属機械)	16.3%
製造業(一般・電気・輸送用機器・精密機械)	22.4%
製造業(繊維、化学、木製品、その他)	4.1%
卸売・小売業、金融・保険業、不動産業	0.0%
運輸・通信業	4.1%
サービス業(コンピュータ・情報サービス)	6.1%
サービス業(設計、コンサルタント)	0.0%
サービス業(医療、教育、放送、その他)	6.1%
公務・非営利団体	4.1%
その他	0.0%
無回答	28.6%
総計	100.0%

### ■回答した卒業生の所属学科



### ■回答した卒業生の転職経験



### ■転職理由

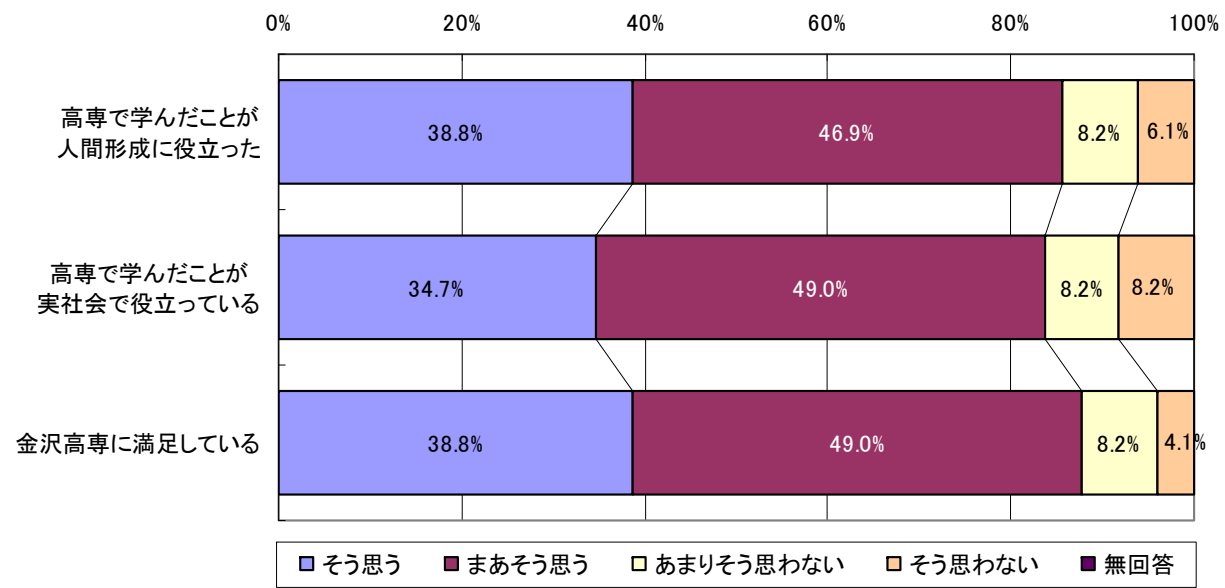
健診で病気発見、治療の期間で迷惑をかけたくないため。  
 体を壊してしまったから  
 業務内容が自分に合わなかったため。

# 卒業生の金沢高専に関する評価

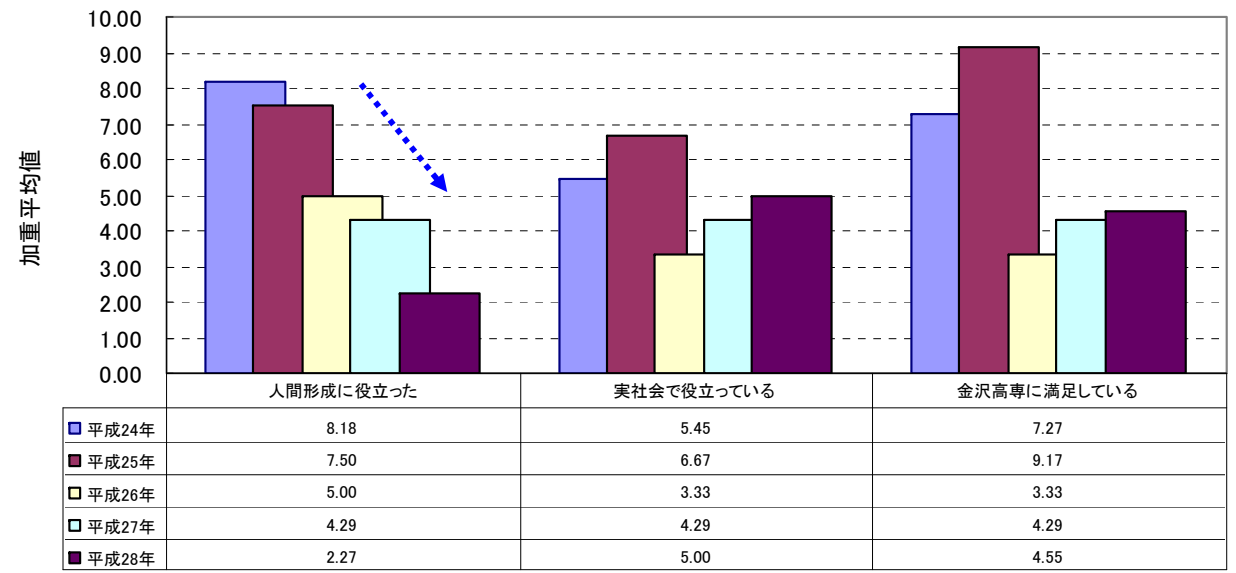
## ■卒業生の金沢高専に関する評価 卒業年度別比較

- 卒業生に金沢高専の評価を聞いたところ、「高専で学んだことが人間形成に役立った」では85.7%が肯定的な意見であり、「高専で学んだことが実社会で役立っている」では83.7%となり、8割以上が肯定的な意見であった。
- 総合評価として「金沢高専に満足している」に対しては、「そう思う」が38.8%、「まあそう思う」が49.0%となり、87.8%は満足しているという回答であり、満足度は高いと言える。
- 卒業年度別に比較すると、「人間形成に役立った」は最近の卒業生ほど肯定的な意見が少なくなっていた。
- 「実社会で役立っている」と「金沢高専に満足している」は同じ傾向となっており、「H25年」の卒業生が高く、「H24年」が続いており、直近の「H26年」から「H28年」にかけては、徐々に肯定的な意見が増加するという傾向になっていた。

■卒業生の高専の評価



■卒業生の高専の評価 卒業年度別比較



# 全体の課題のまとめ

## <学生の満足度や目的・目標意識に関して>

- ◆高専に対する満足度は61.6%で前回から大きく低下し、H20以降で最低となった。
- ◆満足度と連動していると思われるが、他の指標も多くが好ましくない方向に推移している。
- ◆これまで中だるみはゆるやかなケースが多かったが、今回の在學生は高学年に向けて一気に満足度が低下しており、これまでの学生群と異なる傾向となった。

「満足度」が大きく低下した理由は？

在學生の急速な満足度低下の理由は何か？

各指標の低下は満足度と連動しているのか？

「課外活動・部活動」の不満に関する現状把握が必要。

## <授業・学習サポートに関して>

- ◆「授業・学習サポート」の満足度は、ほとんどが前を下回っており、総合満足度との連動が感じられる結果となった。
- ◆「授業・学習サポート」の各指標の満足度は高学年ほど低下しており、卒業に向けて戻ってくる満足度とは異なっていた。
- ◆卒業生は在学中に教員との関係性が非常に良かったと振り返っている。この意識を探ることも重要だと思われる。

残念ながら満足度をはじめ、ほとんどの指標が好ましくない方向に推移していた。しっかりとした要因の究明が必要と言える。

在學生は過去に例を見ないほど、高学年に向けて満足度が低下していた。継続的に見ながら詳細な情報収集が必要と言える。

## <学校での過ごし方に関して>

- ◆学校での過ごし方に関しても、ほとんどの指標で前を下回り、学習以外の面での不満が感じられた。
- ◆「クラスはよくまとまっていた」は前を上回っており、雰囲気は良さそうであった。
- ◆「部活動」は「参加率」「積極性」「環境評価」のいずれも過去最低となり、教職員も「課外活動、部活動の環境」には不満を感じていた。

就職・進学結果の満足度の低下は何によるものなのか？

## <その他の環境に関して>

- ◆社会環境の影響もあるが、就職・進学の「決定内容の満足度」が前を大きく下回った。7割以上は満足しているものの、低下した要因が気になる点と言える。
- ◆卒業生の9割は金沢高専に満足しており、教員に感謝する意見も多く見られた。この点は誇れる結果と言える。

教職員の不満が非常に大きくなっている点が気になった。「時間不足」「情報の共有や伝達」「改善への取り組み」といった視点で現状把握が必要と思われる。

## <教職員の意見に関して>

- ◆教職員は時間の不足を感じており、満足度をはじめとして多くの指標が過去最低となった。
- ◆「情報の共有や伝達」「改善への取り組み」など、不満が蓄積していると思われ、しっかりと現状把握が必要と言える。
- ◆「誇り」や「やりがい」を感じつつも、半数以上が金沢高専に不満を感じており、非常に残念な結果となった。

教職員の満足度低下に関しては、最優先で現状把握をする必要あり。